

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
設置者	ガッコウホウジン アイチガクイン 学校法人愛知学院								
大学の名称	アイチガクインダイガク 愛知学院大学 (Aichi Gakuin University)								
大学本部の位置	愛知県日進市岩崎町阿良池12								
大学の目的	本大学は学校法人愛知学院の経営により、教育基本法の趣旨に則り、学校教育法の規定に基づき、学問の独立を全うし真理の探究と、学理の応用につとめ深く専門の学芸を教授研究し、その普及を図ることを目的とし、併せて愛知学院設立の趣旨である仏教精神、とくに禅的教養を身につけた個性ゆたかにして教養高く、国家および社会の形成者として有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを使命とする。								
新設学部等の目的	心理学部心理学科は、個人または集団の行動特性と取り巻く環境要因を客観的に評価し、直面する問題への解決策を導くことができる人材、心理学の新しい活用法を立案、展開できる人材を養成する。具体的には、心身科学部心理学科が継続的に教育活動を実践してきた、認知・行動・発達・教育、人格・臨床、社会・産業、統計分野における心理学の基礎的知見を活用し、帰属するコミュニティーの問題解決に能動的に取り組む人材を養成する。また、高いコミュニケーション能力とストレスマネジメント能力を備え、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、その実力を職業・地域生活・家庭運営等に活用・応用できる人材を輩出する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	心理学部 [Faculty of Psychology] 心理学科 [Department of Psychology]	4年	160人	2年次1 3年次1	645人	学士(心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和4年4月 第1年次 令和5年4月 第2年次 令和6年4月 第3年次	愛知県日進市 岩崎町阿良池12	
	計		160	2年次1 3年次1	645				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	心理学部心理学科(定員増) (160) (2年次編入学定員) (1) (3年次編入学定員) (1) (令和3年3月収容定員に係る認可申請) 心身科学部 心理学科(廃止) (△140) (2年次編入学定員) (△1) (3年次編入学定員) (△1) ※令和4年4月学生募集停止 (2年次編入学定員は令和5年4月学生募集停止) (3年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	心理学部 心理学科	講義	演習	実験・実習	計	214科目 29科目 14科目 257科目 128単位			
教員の組織概要	学部等の名称				専任教員等				兼任教員等
	新設	心理学部 心理学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			人	人	人	人	人	人	人
		10 (11)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	16 (17)	1 (1)	33 (33)	
	計	10 (11)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	16 (17)	1 (1)	- (-)	
	既設	文学部 宗教文化学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)
		歴史学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	
		英語英米文化学科	4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	
		日本文化学科	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	
		グローバル英語学科	4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	
商学部 商学科		9 (9)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	36 (36)	
経営学部 経営学科		12 (12)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	8 (8)	
経済学部 経済学科	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	19 (19)		
分	法学部 法律学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	25 (25)	
	現代社会法学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)		

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	総合政策学部 総合政策学科	11 (11)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	63 (63)
		心身科学部 健康科学科	11 (11)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	2 (2)	94 (94)
		健康栄養学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	5 (5)	
		薬学部 医療薬学科	16 (16)	8 (8)	15 (15)	9 (9)	48 (48)	0 (0)	23 (23)
		歯学部 歯学科	25 (25)	31 (31)	67 (67)	20 (20)	143 (143)	0 (0)	877 (877)
		教養部	24 (24)	21 (21)	18 (18)	0 (0)	63 (63)	0 (0)	169 (169)
		教職支援センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	41 (41)
		地域連携センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		法務支援センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	16 (16)
		心理臨床センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)
		日本語教育センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)
		計	178 (178)	109 (109)	120 (120)	31 (31)	438 (438)	12 (12)	- (-)
		合計	188 (189)	112 (112)	123 (123)	34 (34)	454 (455)	13 (13)	- (-)
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任		計				
	事務職員	282 (282)	154 (154)		0 (0)				
	技術職員	4 (4)	0 (0)		4 (4)				
	図書館専門職員	10 (10)	1 (1)		11 (11)				
	その他の職員	13 (13)	0 (0)		13 (13)				
	計	309 (309)	155 (155)		464 (464)				
校 地 等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	69336.77㎡	14774.77㎡	34637.76㎡	118749.3㎡				
	運動場用地	78699.35㎡	4967.93㎡	35474.84㎡	119142.12㎡				
	小計	148036.12㎡	19742.70㎡	70112.60㎡	237891.42㎡				
	その他	366760.58㎡	8704.74㎡	3667.73㎡	379133.05㎡				
合計	514796.70㎡	28447.44㎡	73780.33㎡	617024.47㎡					
校 舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	194096.80㎡ ( 66.7 ㎡)	11343.44㎡ ( 1678.9 ㎡)	29288.85㎡ ( - ㎡)	234729.09㎡ ( 1745.6 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	199室	188室	118室	24室 (補助職員 9人)	2室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	心理学部心理学科			34 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	心理学部心理学科	1153802 [343136] (1153802 [343136])	26407 [17004] (26407 [17004])	15075 [13587] (15075 [13587])	25044 (25044)	93 (93)	0 (0)		
	計	1153802 [343136] (1153802 [343136])	26407 [17004] (26407 [17004])	15075 [13587] (15075 [13587])	25044 (25044)	93 (93)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	22422㎡	1567		1,275,000					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	15,579㎡	テニスコート		プール					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等	660千円	660千円	660千円	660千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等	2,106千円	2,106千円	2,106千円	2,106千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	9,600千円	4,100千円	4,100千円	4,100千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,350千円	1,080千円	1,100千円	1,120千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入・寄付金収入・補助金収入・資産運用収入等により充当する。						

大学等の名称	愛知学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	文学部						1.00		
	宗教文化学科	4	70	2年次 1 3年次 1	285	学士 (文学)	1.06	昭和45年度	愛知県日進市岩崎町 阿良池12番地
	心理学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	昭和45年度	同上
	歴史学科	4	130	2年次 1 3年次 1	525	学士 (文学)	1.03	昭和49年度	同上
	英語英米文化学科	4	110	2年次 1 3年次 1	445	学士 (文学)	0.99	昭和61年度	同上
	日本文化学科	4	110	2年次 1 3年次 1	445	学士 (文学)	1.01	昭和63年度	同上
	グローバル英語学科	4	110	2年次 1 3年次 1	445	学士 (文学)	0.98	平成13年度	同上
	商学部								
	商学科	4	250	2年次 1 3年次 1	1,005	学士 (商学)	1.01	昭和28年度	愛知県名古屋市北区 名城3丁目1番1号
	ビジネス情報学科	4	—	—	—	学士 (商学)	—	平成13年度	
	経営学部								
	経営学科	4	290	2年次 1 3年次 1	1,165	学士 (経営学)	1.04	平成2年度	愛知県名古屋市北区 名城3丁目1番1号
	現代企業学科	4	—	—	—	学士 (経営学)	—	平成13年度	
	経済学部								
	経済学科	4	250	2年次 1 2年次 1	1,005	学士 (経済学)	1.04	平成25年度	愛知県名古屋市北区 名城3丁目1番1号
	法学部								
	法律学科	4	190	2年次 1 3年次 1	765	学士 (法学)	1.02 0.98	昭和32年度	同上
	現代社会法学科	4	105	2年次 1 3年次 1	425	学士 (法学)	1.07	平成14年度	同上
	総合政策学部								
	総合政策学科	4	210	2年次 1 3年次 1	845	学士 (総合政策)	1.02	平成10年度	愛知県日進市岩崎町 阿良池12番地
心身科学部									
心理学科	4	140	2年次 1 3年次 1	567	学士 (心身科学)	1.02 1.03	平成15年度	同上	

	健康科学科	4	180	2年次 1 3年次 1	700	学士 (心身科学)	1.00	平成16年度	同上	
	健康栄養学科	4	80		320	学士 (心身科学)	1.04	平成20年度	同上	
	薬学部 医療薬学科	6	145	—	870	学士 (薬学)	1.00	平成17年度	愛知県日進市岩崎町 阿良池12番地 (1年次) 愛知県名古屋市千種区 楠元町1丁目100番地 (2～6年次)	
	歯学部 歯学科	6	125	—	750	学士 (歯学)	0.96	昭和36年度	愛知県名古屋市千種区 楠元町1丁目100番地 (1～4年次) 愛知県名古屋市千種区 末盛通2丁目11番地 (5～6年次)	
大 学 の 名 称		愛知学院大学大学院								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	文学研究科									
	宗教学仏教学専攻									
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(文学)	0.20	昭和49年度	愛知県日進市岩崎町 阿良池12番地	
	博士後期課程	3	4	—	12	博士(文学)	0.08	昭和51年度		
	歴史学専攻								同上	
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(文学)	0.50	昭和53年度		
	博士後期課程	3	5	—	15	博士(文学)	0.06	昭和55年度		
	英語圏文化専攻								同上	
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(文学)	0.15	平成2年度		
	博士後期課程	3	5	—	15	博士(文学)	0.00	平成4年度		
	日本文化専攻								同上	
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(文学)	0.05	平成4年度		
	博士後期課程	3	5	—	15	博士(文学)	0.00	平成6年度		
	心身科学研究科								同上	
	心理学専攻									
	博士前期課程	2	20	—	40	修士(心理学)	0.57	昭和49年度		
	博士後期課程	3	4	—	12	博士(心理学)	0.08	昭和51年度		
	健康科学専攻								同上	
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(健康科学)	0.20	平成20年度		
	博士後期課程	3	4	—	12	博士(健康科学)	0.41	平成22年度		
	商学研究科									
	商学専攻								愛知県名古屋市北区 名城3丁目1番1号	
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(商学)	0.50	昭和39年度		
博士後期課程	3	5	—	15	修士(博士)	0.06	昭和41年度			
経営学研究科								同上		
経営学専攻										
博士前期課程	2	20	—	40	修士(経営学)	0.17	平成5年度			
博士後期課程	3	10	—	30	博士(経営学)	0.00	平成6年度			
経済学研究科								同上		
経済学専攻										
修士課程	2	7	—	14	修士(経済学)	0.35	平成29年度			
法学研究科								同上		
法律学専攻										
博士前期課程	2	15	—	30	修士(法学)	0.46	昭和39年度			
博士後期課程	3	2	—	6	博士(法学)	0.00	昭和41年度			
総合政策研究科								愛知県日進市岩崎町 阿良池12番地		
総合政策専攻										
博士前期課程	2	6	—	12	修士(総合政策)	0.08	平成14年度			
博士後期課程	3	4	—	12	博士(総合政策)	0.00	平成14年度			
薬科学研究科								愛知県名古屋市千種区 楠元町1丁目100番地		
薬科学専攻										
修士課程	2	—	—	—	修士(薬科学)	—	平成21年度			
薬学研究科								同上		
医療薬学専攻										
博士課程	4	3	—	12	博士(薬学)	0.58	平成24年度			
歯学研究科								同上		
歯科基礎系・歯科臨床系										
博士課程	4	18	—	72	博士(歯学)	0.81	昭和43年度			

既設大学等の状況	法務研究科 法務専攻 専門職学位課程	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成17年度	愛知県日進市岩崎町阿良池12番地
	大学の名称	愛知学院大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	歯科衛生学科	3年	100人	—年次人	300人	短期大学士 (歯科衛生)	1.02倍	平成18年度	愛知県名古屋市千種区桶元町1丁目100番地
附属施設の概要		<p>名称：愛知学院大学歯学部附属病院  目的：教育活動・研究活動・医療活動  所在地：愛知県名古屋市未盛通2-11  設置年月：昭和35年6月30日（北館）、平成10年3月2日（西館）、平成12年11月10日（南館）  規模等：10755.50㎡（北館）、6404.45㎡（西館）、5045.17㎡（南館）</p> <p>名称：心理臨床センター  目的：心の悩みや問題行動を扱い、面接・相談助言・指導などを通じた支援  所在地：愛知県日進市岩崎町阿良池12  設置年月：平成9年（心理臨床・教育相談室として開設）  規模等：1500.00㎡（日進キャンパス3号館2階）</p>							

教育課程等の概要															
(心理学部心理学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○			2		1				オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） 兼1 共同 兼1 共同  オムニバス
	心理学概論Ⅱ	1後	2			○			3						
	心理学統計法Ⅰ	1前	2			○				1					
	心理学統計法Ⅱ	1後	2			○				1					
	認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学）	1後	2			○			1						
	発達心理学Ⅰ	2前	2			○					1				
	人格心理学Ⅰ（感情・人格心理学）	2前	2			○			1						
	社会心理学Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2前	2			○			1						
	ストレスマネジメント入門	2後	2			○				1					
	心理学研究法	3前	2			○			3						
小計（10科目）	—	—	20	0	0	—	—	—	8	2	1	0	0	兼1	—
専門教育科目	学習・言語心理学	1前		2		○									兼1
	認知心理学Ⅱ	2前		2		○			1						兼1
	発達心理学Ⅱ	2後		2		○					1				
	人格心理学Ⅱ	2後		2		○			1						
	社会心理学Ⅱ	2後		2		○			1						
	生理学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）	2前		2		○									兼1
	生理学Ⅱ	2後		2		○									兼1
	神経・生理心理学	3前		2		○									兼1
	生理心理学	3後		2		○									兼1
	心理学史	3前		2		○									兼1
	スポーツ心理学	3前		2		○			1						
	ポジティブ心理学	3後		2		○					1				
	カレントトピックスa	3前		2		○									兼1
	カレントトピックスb	3後		2		○									兼1
	カレントトピックスc	3前		2		○			1						
	カレントトピックスd	3後		2		○			1						
	カレントトピックスe	3前		2		○									兼1
	カレントトピックスf	3後		2		○									兼1
	インターンシップ	2前		2				○	1						
	調査法Ⅰ	2前		2				○		1	1				兼2 共同
	調査法Ⅱ	2後		2				○		1	1				兼2 共同
	ストレスマネジメント演習Ⅰ	3前		2				○	1						
ストレスマネジメント演習Ⅱ	3後		2				○	1							
小計（22科目）	—	—	0	46	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼6	
専門展開科目	臨床心理学Ⅰ（臨床心理学概論）	2前		2		○			1						
	多職種連携論	2後		2		○				1					
	健康・医療心理学	2後		2		○			1						
	臨床心理学Ⅱ（心理学的支援法）	3前		2		○									兼1
	司法・犯罪心理学	3前		2		○			1						
	精神疾患とその治療Ⅰ	3前		2		○									兼1
	精神疾患とその治療Ⅱ	3後		2		○									兼1
	発展講義a	3前		2		○									兼1
	発展講義b	3後		2		○									兼1
	心理検査演習Ⅰ	3前		2				○	1						
	心理検査演習Ⅱ	3前・後		2				○							兼1
	面接法・介入法（心理的アセスメント）	3前		2				○		2					兼1 共同
	人格・臨床心理学演習Ⅰ	3前		2				○							兼1
人格・臨床心理学演習Ⅱ	3後		2				○							兼1	

## 教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門展開科目	文化心理学	2前		2		○					1					
	障害者・障害児心理学	2後		2		○				1						
	教育心理学Ⅰ(教育・学校心理学)	2前		2		○									兼1	
	教育心理学Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	障害者教育総論	2前		2		○				1						
	肢体不自由者の自立活動の理論と実際	2前		2		○				1						
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2集中		2		○				1					兼1	オムニバス
	知的障害児指導法	2前		2		○				1						
	異文化理解	3後		2		○						1				
	ケアマネジメント	3前		2		○					1					
	発展講義c	3前		2		○									兼1	
	発展講義d	3後		2		○									兼1	
	発展講義e	3前		2		○									兼1	
	発展講義f	3後		2		○									兼1	
	発展講義g	3前		2		○						1				
	発展講義h	3後		2		○									兼1	
	発達・教育心理学演習Ⅰ	3前		2				○							兼1	
	発達・教育心理学演習Ⅱ	3後		2				○							兼1	
	社会・産業心理学演習Ⅰ	3前		2				○			1					
	社会・産業心理学演習Ⅱ	3後		2				○			1					
専門教育科目	産業・組織心理学Ⅰ	2前		2		○				1						
	産業・組織心理学Ⅱ	2後		2		○				1						
	データサイエンス入門	2後		2		○						1				
	感性工学	2後		2		○				1						
	消費者行動論	2後		2		○									兼1	
	製品評価の心理学	3前		2		○				1						
	多変量解析Ⅰ	3前		2		○					1					
	多変量解析Ⅱ	3後		2		○					1					
	行動経済学	3前		2		○									兼1	
	発展講義i	3前		2		○									兼1	
	発展講義j	3後		2		○									兼1	
	実験心理学演習Ⅰ	3前		2				○			1					
	実験心理学演習Ⅱ	3前		2				○			1					
	情報ビジネス心理学演習Ⅰ	3後		2				○					1			
情報ビジネス心理学演習Ⅱ	3前		2				○				1	1			共同	
デジタルデザイン演習	3後		2				○			1						
小計(50科目)			0	100	0			-		9	3	2	0	0	兼16	
専門総合科目	心理学実験Ⅰ	2前	2					○		4		2			兼2	共同
	心理学実験Ⅱ	2後	2					○		4		2			兼2	共同
	プレセミナー	3前	2					○		9	3	3				オムニバス・共同(一部)
	総合研究演習Ⅰ	3後	2					○		9	3	3				
	総合研究演習Ⅱ	4前	2					○		9	3	3				
	総合研究演習Ⅲ	4後	2					○		9	3	3				
	卒業研究	4通		6				○		9	3	3				
小計(7科目)			12	6	0			-		9	3	3	0	0	兼2	

## 教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
公認心理師 専 用 科 目	公認心理師の職責	2後		2			○		4	1					兼1 オムニバス・ 共同(一部) 共同 共同 共同 共同
	福祉心理学	3後		2		○		1							
	関係行政論	3前		2		○									
	心理演習	3前		2			○		5	1					
	心理実習Ⅰ	3後		1				○	1	2					
	心理実習Ⅱ	4前		1				○	1	2					
	心理実習Ⅲ	4後		1				○	1	2					
小計(7科目)			0	11	0		-	6	2	0	0	0	兼1		
資格 取 得 科 目 に 特 別 支 援 教 育 科 目	知的障害者の心理・生理・病理	2集中		2		○								兼2	オムニバス 兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1
	病弱者の心理・生理・病理	2後		2		○								兼1	
	肢体不自由者教育論	2集中		2		○								兼1	
	病弱者教育論	2集中		2		○								兼2	
	視覚障害教育総論	2集中		2		○								兼1	
	聴覚障害教育総論	2前		2		○								兼1	
	重複障害・軽度発達障害教育総論	2後		2		○								兼1	
小計(7科目)			0	14	0		-	0	0	0	0	0	兼7		





## 教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	外国語科目 エレクティブ	英語読解法Ⅰ	1前	1		○									兼1		
		英語読解法Ⅱ	1後	1		○									兼1		
		英語読解法Ⅲ	2前	1		○									兼1		
		英語読解法Ⅳ	2後	1		○									兼1		
		実践英語Ⅰ	1前	1		○									兼1		
		実践英語Ⅱ	1後	1		○									兼1		
		実践英語Ⅲ	2前	1		○									兼1		
		実践英語Ⅳ	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		中国語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		中国語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		中国語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		中国語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		中国語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		中国語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		中国語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		中国語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		中国語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		中国語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		フランス語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		フランス語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		韓国語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		韓国語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		小計(78科目)		—	6	76	0	—			0	0	0	0	0	兼27	—

## 教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	健康総合 科学科目	スポーツ科学Ⅰ	1前	1					○							兼5
		スポーツ科学Ⅱ	1後	1					○							兼5
		スポーツ科学Ⅲ	2前		1				○							兼5
		スポーツ科学Ⅳ	2後		1				○							兼5
	小計(4科目)		—	2	2	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—
	海外事情 科目	海外事情Ⅰ	1集中		2				○							兼1
		海外事情Ⅱ	1集中		2				○							兼1
		海外事情Ⅲ	1集中		1				○							兼1
		海外事情Ⅳ	1集中		1				○							兼1
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—
合計(257科目)		—	44	391	0	—			10	5	3	0	0	兼106	—	
学位又は称号	学士(心理学)		学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<b>【教養教育科目】</b> ・宗教学Ⅰ・Ⅱ(4単位修得) ・教養基幹科目から20単位以上修得(人文系・社会系・自然系・主題系から各4単位以上修得) ・外国語科目(10単位修得)(英語6単位、4言語の中から1言語を選択して2単位修得。加えて文化事情を2単位修得) ・健康総合科学科目(2単位修得) 合計36単位以上取得  <b>【専門教育科目】</b> ・必修科目の32単位および選択科目から44単位、計76単位以上修得 ・選択科目44単位において、所定の演習科目から4単位以上を含むこと ・専門展開科目のうち、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野の全てにおいて、講義科目を4単位以上を修得 ・専門展開科目のうち、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野のいずれか一つの分野において20単位以上を修得 ・特別支援教育に関する科目は、14単位まで卒業要件単位に含むことができる 合計76単位以上修得  <b>【卒業要件単位】</b> 教養教育科目36単位以上、専門教育科目76単位以上を含め、計128単位以上修得 (履修科目の登録の上限：44単位(年間))						1学年の学期区分		2学期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	心理学概論Ⅰ	<p>私たち誰もが感じている“心”とはどのようなものなのだろうか。また、心の働きはどのように調べられてきたのだろうか。この講義では心理学をはじめて学ぶ学生を対象とし、現代の心理学研究によって明らかにされてきた”心の仕組み・働き”についての全体像を学ぶ。そして心理学が科学的なアプローチによって探求されてきたこと理解することを到達目標とする。2つのクラスを設定し、1つのクラスを2名の教員がオムニバス形式で担当し、もう一方のクラスは1名の教員が担当する。</p> <p>クラス1（オムニバス方式／全15回）            (8 石田光男／7回)            心理学の変遷について外観し、学習、知覚、認知心理学の領域の概要について講義する。            (15 松岡弥玲／7回)            発達段階における感情、気質、動機づけなどの心の働きの変容について概説する。            (8 石田光男・15 松岡弥玲／1回)（共同）            上記の講義内容で触れたテクニカルワードを中心に解説し、2年次以降の学修指針を提示する。</p> <p>クラス2            (7 齋藤眞／15回)            心理学の変遷について概観し、学習、知覚、認知、発達段階における感情、気質、動機づけなどの心の働きの変容について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		心理学概論Ⅱ	<p>私たち誰もが感じている”心”とはどのようなものなのだろうか。また、心の働きはどのように調べられてきたのだろうか。この講義では心理学をはじめて学ぶ学生を対象とし、社会心理学、人格・臨床心理学の領域について概説する。そして心理学が科学的なアプローチによって探求されてきたこと理解することを到達目標とする。2つのクラスを設定し、1つのクラスを2名の教員がオムニバス形式で担当し、もう一方のクラスは1名の教員が担当する。</p> <p>クラス1（オムニバス方式／全15回）            (3 岡本真一郎／7回)            人の社会行動について扱う。具体的には、社会的自己、対人認知、コミュニケーション、社会的影響、集団と組織、集合行動などについて、具体例を挙げながら心理学的見地から概説する。            (5 中村薫／7回)            臨床心理学の全体構造と歴史を概観したのち、対人援助の理論モデル、性格と個人差、異常心理学、心理アセスメント、様々な援助活動について、教員の実務経験も踏まえて概説する。            (3 岡本真一郎・5 中村薫／1回)（共同）            上記の講義内容で触れたテクニカルワードを中心に解説し、2年次以降の学修指針を提示する。</p> <p>クラス2（7 齋藤眞／15回）            社会的自己、対人認知、コミュニケーション、社会的影響、集団と組織、集合行動、臨床心理学の歴史、対人援助の理論モデル、性格と個人差、異常心理学、心理アセスメント、様々な援助活動について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		心理学統計Ⅰ	<p>さまざまなレポートや卒論作成のために必要となる基礎的な統計学的方法の内容について理解を深める。そのために、理論だけでなく電卓を用いて実際に計算を行ないながら統計学を学習する。心理学の領域での基礎的な統計学的方法についての講義を、演習をまじえて行う。具体的には、記述統計学、推測統計学の基礎を中心とした基礎的な統計学的方法について理解する。</p>	共同
		心理学統計Ⅱ	<p>心理統計学Ⅰに引き続き、レポートや卒論作成のために必要となる基礎的な統計学的方法の内容について理解を深める。心理学の領域での基礎的な統計学的方法についての講義を、演習をまじえて行う。具体的には、分散分析、カイ2乗検定を中心に講義と計算の実習を行い、基礎的な統計的方法を理解する。</p>	共同
		認知心理学Ⅰ (知覚・認知心理学)	<p>認知 (cognition) とは人間が外界の情報を如何に認識し、且つ利用できるのかといった心の機能である。すなわち認知機能とは、感覚情報のような低次な処理から他者とのコミュニケーションのような高次な処理まで、様々な情報処理に関する機能として位置づけることができる。本講義では認知心理学の成り立ちについて触れ、他の心理学および隣接諸科学との類似点と相違点について解説する。また視覚、聴覚、注意に関するテーマを取り上げ、これらの機能の特性および関連する障害について解説していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	発達心理学 I	長寿高齢化を背景に、発達心理学は児童心理学から生涯発達心理学へと拡大され、人が生まれてから死ぬまでの生涯を捉える学問になった。本授業では、生涯発達心理学の理論（エリクソン、ピアジェ、フロイトなど代表的な発達の大ラドセオリー、生涯発達の捉え方、愛着理論）をはじめ、遺伝と環境の問題（遺伝説、環境説、相互作用説、行動遺伝学）、胎児期から高齢期までの各発達段階の特徴について、認知、言語、感情、社会性の発達、生じうる問題などについて理解し、自己と他者の発達を理解する力を身に付ける。	
	人格心理学 I (感情・人格心理学)	心理学の初学者として、人の感情や人格の性質や仕組みについて、正しく理解しておくことは必要不可欠である。人格心理学 I では、感情に関する理論と感情が生じる仕組み、感情が人間行動に及ぼす影響、人格の概念とその形成過程、人格の類型と特性を学ぶことを目的とし、感情および人格に関する諸理論をはじめ、心理臨床実践に繋がる知見について概説する。	
	社会心理学 I (社会・集団・家族心理学)	人の社会行動について、基本的な知見を心理学的見地から論じていく。社会的自己（自己の認知、自己開示など）、社会的認知（情報処理過程と対人認知）、説得過程と態度変容、対人関係（友人関係の既定因）、社会的影響（同調、服従など）、家族の心理などを取り上げ、実験・調査などの結果も示しながら論じていく。	
	ストレスマネジメント入門	ストレスとは、外部からのさまざまな刺激（ストレッサー）によって自分の身体や心に負荷がかかり、「歪み」が生じることをいう。それにより、様々な身体とメンタルへの不調を引き起こす原因になる。講義の前半では、ストレスが起こる原因、症状について概説する。その中でもメンタルヘルスの問題に注目し、ストレスによって起こりやすい心理的な疾患についての理解を深めてもらう。講義の後半では、ストレスマネジメントの方法を具体的な事例や実践を通して学んでもらう。	
	心理学研究法	心理学を研究するための種々の方法について学習する。特に、心理学における実験法、臨床心理学の学問的特色と方法論、調査法の詳細について理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (6 榊原雅人/5回) さまざまな心理学研究法における実験法の位置づけを示した後、研究デザインの特徴について理解する。また、研究の倫理についても触れることで、実際の研究（例えば、卒業研究）に必要な知識や態度を身につけることを目標とする。 (10 八田純子/5回) 臨床心理学の基本的なモデルを理解した後、臨床心理学領域の研究デザイン、臨床における倫理を学習する。実際の研究例をもとにして臨床心理学研究の動向や応用的側面についても理解する。 (1 高木浩人/5回) 心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）、データを用いた実証的な思考方法、調査法の詳細について理解を深める。	オムニバス方式
専門基幹科目	学習・言語心理学	学習心理学とは行動の原因と結果の結びつきを知る学問である。心理学で用いられる学習とは学校の勉強のことだけを指す言葉ではなく、様々な知識、態度、価値観の変化まで含まれている。つまり、私たちが日常生活で何気なく行う動作一つを取っても学習の結果もたらされたものであるといっても過言ではない。本講義では、こうした我々の行動を規定している学習の仕組み、その歴史的背景、そして、学習心理学の発展に深くかかわりのある動物たちの実験を紹介しながら講義を進めていく。	
	認知心理学 II	我々の脳には感覚器官を通じて入力された膨大な情報が蓄積されている。これを記憶といい、蓄えられた情報を的確に利用しながら、私たちは環境へ柔軟に適応している。また記憶はヒトがヒトらしく生きるために必要な認知機能といえる。本講義では主に記憶の特徴について解説し、情動、言語、意思決定など他の心理的機能と関連性について論じる。またこれらの機能に関連する機能障害についても触れていく。	
	発達心理学 II	発達心理学 II では、発達心理学 I の基礎的な知識を踏まえ、生涯発達心理学におけるより専門的なトピックについて深く学ぶことを目的とする。具体的には、胎児期の発達に加えて妊娠中の心理、乳幼児期における気質の定義・測定法・長期間縦断研究で得られた知見、児童期における学業達成に関わる理論、友人関係の諸問題、青年期のアイデンティティの形成、成人期の夫婦関係・離婚の子どもへの影響、高齢期については長寿の要因、死に向かう心などを取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基幹科目	人格心理学Ⅱ	人格心理学Ⅱでは、心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違い、人格の発達・形成過程の理解などについて講義する。具体的テーマとしては、類型論（クレッチマーの類型論、ユングの類型論など）と特性論（キャッテル、特性5因子モデルなど）、力動的構造論（レヴィンの場の理論、フロイトの精神分析理論、対象関係論、ユング心理学、アドラー心理学など）、人間性心理学、文化とパーソナリティ、人格形成と発達、人格理解の方法、人格の障害と病理、ストレス対応などを取り上げる。	
	社会心理学Ⅱ	人間の社会行動について、「社会心理学Ⅰ」を踏まえてやや発展的な問題も盛り込んで概説していく。社会的情報処理過程、社会的感情、説得に関わる諸問題、援助行動、言語・非言語的コミュニケーション、インターネット、集合行動と大衆社会現象などを扱う。実験・調査などのデータを理解できるように、できるだけ具体的に論じていく。	
	生理学Ⅰ (人体の構造と機能及び疾病)	この科目は、ヒトの各機能の発達とその障害について医学的・生物学的側面から理解することを目的とする。発達障害児の生理・病態を理解するために必要な脳・神経系をはじめとする身体の構造と機能および発生・発達段階にみられる障害を引き起こす要因と主な発達障害の病態、がんを含む難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について解説し、障害児・者に必要な支援の基本について学ぶ。	
	生理学Ⅱ	本科目は、ヒトの機能の発達とその障害の概要について医学的・生物学的側面から理解することを目的とする。主に身体障害児の生理・病態を理解するために必要な脳・神経系をはじめとする身体の構造と機能、発生・発達段階にみられる障害を引き起こす要因と主な発達期に見られる身体障害の病態と合併する障害、障害児・者の心理社会的に必要な支援などについて解説する。さらに、身体的な障害を中心に解説し、発達期にみられる機能障害の克服に必要な機能回復のための訓練の基本的な考え方について摂食・嚥下機能障害を例として、機能の発達に遅れのある子どもたちに必要な支援の基本について学ぶ。	
	神経・生理心理学	疾患や事故による脳の損傷によって、認知や行動に機能不全が生じる。本講義では、このような脳病変によって生じる高次脳機能障害を理解を深めることを目指す。神経心理学の基礎について概観した後、最新の知見を通して、高次脳機能障害に関わる心と脳の連関について論じる。さらに、臨床的な事例を通して、高次脳機能障害の評価方法やアセスメントについて学びながら、実践的に活用できる能力を身につける。	
	生理心理学	心の動きに伴う身体反応の変化をしばしば経験することからもわかるように、身体つまり脳を中心とした神経生理学的メカニズムは心の営みと密接に関連する。本講義では、生理心理学的な視点から心的機能の理解を深め、心と身体に関連性について考察を行う。脳神経の構造、生理心理学および認知神経科学における研究手法について解説した後、実証研究を通して注意、記憶、学習、感情など心的機能の神経生理学的メカニズムについて学ぶ。	
	心理学史	本講義では心理学の歴史の大枠を概観する。心理学を専門的に学ぶためには、まずはその歴史を理解することは重要である。本講義を通して、心理学の様々な事象や事柄を知るだけでなく、大局的視点から心理学をとらえていく。そして心理学の歴史の変遷を理解し、心理学の諸領域が現代心理学においてどのように位置づけられるかを把握することを目指していく。またこれまでの歴史を踏まえ、将来的に心理学が他の自然科学や社会科学分野とどのように相互作用すべきかを考えていく。	
	スポーツ心理学	スポーツ心理学は、運動パフォーマンスに伴う情報処理過程、心理的コンディショニング、スポーツ活動によるメンタルヘルスなどを対象とする応用的な心理学分野として位置づけられる。本講義では、動機づけ、運動学習、運動制御、情動の影響、運動に関与する知覚情報の基礎について解説し、知覚-運動の連動性やそれに伴う情報処理過程、スポーツ活動による心理的健康維持機能、スポーツ心理学における研究手法について理解することを目指す。	
	ポジティブ心理学	ポジティブ心理学は、それまでの心理学が精神的不調に対するアプローチに偏っていたことを批判し、人にとって良いこととは何かという問いを追求しようとして提唱されたものである。ポジティブ心理学では、人のもつ良いところを明らかにし、ポジティブな機能を推進していくために科学的応用的なアプローチを行おうとする。この講義では、ポジティブ心理学に関する歴史、理論、実証研究を学び、その知識をもとに自分・他者の人生をよりポジティブなものに導くために応用することができることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基幹科目	カレントトピックスa	脳を中心とした身体システムは心の営みと密接に関連する。本講義では、感情に関する諸現象に焦点を当て、心と身体の間連性についての理解を深めることを目指す。生理心理学の基礎について概観した後、最新の心理学・認知科学研究を通して、感情に関わる生理現象の神経メカニズムとそのはたらきについて論じる。さらに、感情に伴う身体反応や認知機能の変容を通して、環境変化に優れた人間の適応力について考察する。	
		カレントトピックスb	日常ではしばしば身体反応の変化が心のはたらきと密接に結びついていることを経験する。これらの多くはストレスに関連した現象でもある。本講義では、ストレスに関する諸現象に焦点を当て、心と身体の間連性についての理解を深めることを目指す。はじめに生理心理学の基礎について概観した後、最新の心理学・認知科学研究を通して、ストレスの神経メカニズムとそのはたらきについて論じる。	
		カレントトピックスc	深層心理学について理解を深めることを目標とする。臨床心理学での治療理論について精神分析・来談者中心療法・認知行動療法・分析心理学などについて、これまで学んできたことの再整理を行い、臨床実務において上記の考え方がどのように使われているか実践的に学んでいく。	
		カレントトピックスd	臨床実務論について概説する。臨床心理学の専門職の実務で求められる課題について、特に個人心理療法の治療関係において共有されるイメージ素材をもとに、個人心理療法での具体的な見立てや病理理解・治療プロセスなどについて理解を深める。様々な実務領域での素材について検討・概説を加える方向を重視してゆく場合もある。重視してゆく場合もある。	
		カレントトピックスe	心理学および隣接諸科学を含めた学際的領域の最新のトピックスを取り上げ、社会貢献としての心理学の役割を考察する。時々刻々と変わりゆく社会情勢において、心理学に求められる役割も変化していく。このような時代背景に対して柔軟に対応すべく、人々の生活に心理学どのように関わり寄与できるのかを、様々な視点から考察していく。本講義は、教員の専門性を活かし、心理学的支援分野、多文化共生分野、情報・ビジネス分野の枠組みに捉われない発展講義として位置付ける。	
		カレントトピックスf	心理学および隣接諸科学を含めた学際的領域の最新のトピックスを取り上げ、社会貢献としての心理学の役割を考察する。時々刻々と変わりゆく社会情勢において、心理学に求められる役割も変化していく。このような時代背景に対して柔軟に対応すべく、人々の生活に心理学どのように関わり寄与できるのかを、様々な視点から考察していく。本講義は、教員の専門性を活かし、心理学的支援分野、多文化共生分野、情報・ビジネス分野の枠組みに捉われない発展講義として位置付ける。	
		インターンシップ	企業や役所などで就業体験を行うことを通じて「働くこと」の意義を学ぶことを目的とし、業種・業界知識や職場・職種の知識を得て、キャリア・ビジョンを明確にする。事前研修・訪問、事後報告会を通して研修の成果を深める。	
		調査法I	調査法I、IIでは、調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習し、調査の技法を習得する。調査法Iでは、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定までをおこなう。本授業の目標は、調査法の基本的な考え（調査法とは、調査倫理、資料の利用方法、分析の手法、報告書の書き方など）を理解し、調査の立案から調査票の作成までの技法を習得することである。演習形式で授業は進行し、受講者同士でのディスカッション及び共同作業が必要とされる。	共同
		調査法II	調査法I、IIでは、調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習し、調査の技法を習得する。調査法IIでは、調査法Iで作成した調査票の実施（配布、回収）、収集したデータの入力、統計分析（仮説検証）、分析結果の検討、報告書の作成、調査結果のプレゼンテーションまでを行う。本授業の目標は、調査技法に関する基本的な考えを理解し、調査の実施から報告書の作成、および調査内容のプレゼンテーションが出来るようになることである。調査法Iと同様に演習形式で授業は進行し、受講者同士でのディスカッション及び共同作業が必要とされる。	共同
		ストレスマネジメント演習I	日常生活における情動経験(ストレス)はさまざまな生体反応を引き起こし、時に病的な状態を引き起こすことさえある。近年、オペラント条件づけの原理を利用して生体反応をコントロールし(バイオフィードバック法・ニューロフィードバック法)、ストレスや病的状態を回復に導いていこうとする学問領域(応用心理生理学)が盛んになりつつある。本講義は、自律神経活動に関わる生体反応をバイオフィードバックによってコントロールする手法について理解し、これによって生まれる臨床的効果(不安やうつ状態の低減)の可能性について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基幹科目	ストレスマネジメント演習Ⅱ	本授業は、ストレスマネジメントの理論を学修していることを前提に、実技演習を中心にストレスマネジメントの具体的手法としての臨床動作法を学修する。臨床動作法は、意識の外向性・内向性のコントロール、意識モードを言語論理モードから体実感直感モードに切り替えることによる意識と無意識の一致（無意識のコントロール）等を身につけることが可能な臨床技法であり、不登校、鬱、認知症等の問題行動の改善等に効果のある心理療法的技法であるが、ストレスマネジメント技法としても広く効果が示されている。授業では、一人で行う動作法、支援者とともに行う動作法等、諸技法を演習する。なお、アクティブラーニングとして、技法や効果について議論するだけでなく、学生による新しい支援法の開発等も実施する。	
	専門展開科目	心理学実践科目	臨床心理学Ⅰ (臨床心理学概論)	臨床心理学は心理学のなかでも実践的な支援（援助）をもとに発展してきた学問である。その成り立ちや方法論は独自性に富んでいる。本講義では臨床心理学を概観し、より応用的な内容となる臨床心理学Ⅱ（心理学的支援法）を学ぶ上での基礎的知識の定着をさせ説明できるようになることを目的とする。具体的には①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論（精神分析理論・認知行動理論・パーソンセンタードアプローチなど）を概説する。①は臨床心理学の国内外の歴史や臨床心理学の定義や理念、体系を学習する。②は各理論を整理したうえで症例を紹介し、理論と実践の繋がりについて学ぶ。
		多職種連携論	本講義では、地域で暮らす人々の尊厳の保持と自立生活の実現のために医療・福祉・心理関係機関が連携し、包括的かつ継続的な支援を当事者並びにその家族提供できるサービス提供体制の構築（地域包括ケアシステム）について学修することを目的とする。多種多様な専門性を持つ職種が個々の高い専門性を基盤に、当事者並びにその家族への支援の目的と情報を共有し、各専門性を活かした支援の分担の在り方と効果、相互協力と連携を行うことの意義と実践を学ぶ。	
		健康・医療心理学	本講義は心身の健康や疾病予防と回復について心理学の視点から捉え、ストレスと心身の疾病との関係について概説する。具体的には代表的なストレスモデル、こころと身体（免疫、神経）、医療現場および保健活動が行われている現場における心理社会的課題と必要な支援について学ぶ。また、健康被害を及ぼすストレスとして注目されている自然災害や人為災害はじめ虐待や犯罪被害を受けたサバイバーに対して必要な心理に関する支援についても学ぶ。これらについて十分理解し説明できるようにすることを目的とする。	
		臨床心理学Ⅱ (心理学的支援法)	臨床心理学は心理学のなかでも実践的な支援をもとに発展してきた学問である。本講義は臨床心理学Ⅰの応用に位置する講義である。代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応と限界について概説する。そのうえで、支援を求める者とその関係者に対する支援法について症例を参考にして理解を深めていく。その他に訪問による支援や地域支援、心の健康教育といった多彩な支援法について学ぶ。そのうえで支援に共通して求められる態度（良好なコミュニケーション、プライバシーへの配慮）の重要性を理解し、これらについて説明できるようにすることを目的とする。	
		司法・犯罪心理学	毎日のように報道される“犯罪”は、案外、身近で生じている。これまでに、加害・被害を含め、犯罪と全くかかわったことのない人は、どのくらいいるのだろうか。幸いにこれまで加害・被害の経験のない人も、今後も、全くかかわらずに過ごすことができるのだろうか。本講義では、犯罪の様々な原因や発生のメカニズムを考えるとともに、犯罪捜査に関連する心理学的問題、犯罪者や非行少年の処遇、及び、犯罪被害者の心理的援助に必要な基本的知識について学ぶことを目的としている。さらに、離婚などの家事事件の手続きについても触れる。	
		精神疾患とその治療Ⅰ	精神医療の現場において、各疾患に対し、どのような心理療法的アプローチが行われているかについて、臨床経験をもとに講義を進める。総論的な解説のみならず各疾患について、具体的な臨床例を提示し、どのように診断・見立てを行い、どのように治療的な介入、あるいは他の社会資源と医療機関との連携を行うか実践的に考え、学びを深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門展開科目	精神疾患とその治療Ⅱ	「精神疾患とその治療Ⅰ」に引き続き、精神医療の現場における各疾患への心理療法的アプローチについて学ぶ。代表的な疾患の具体例を提示しながら、それぞれがどのような臨床像を呈するか、どのような心理療法的介入が可能であるかについて理解を深めつつ、他職種連携の可能性について検討することもねらいのひとつである。	
	発展講義a	この授業では、乳幼児の発達特徴を領域ごとに学び、乳幼児の行動について具体例をもとに理解を深める。乳幼児は、誕生直後から自分を取り巻く環境と向き合い、人とのコミュニケーションを通して情緒、言葉、社会性を伸ばしていく。そのプロセスと、どのような周りの関りが必要であるかを学ぶ。	
	発展講義b	心理療法とは、心理的問題を抱える患者やクライアントの、認知・行動・感情・身体感覚に変化を起こさせ、症状や問題行動を消去もしくは軽減することをめざすことである。本講義ではいくつかの心理療法に焦点を絞り、個々の理論的背景と適用事例について触れていくことにより、その療法の特徴について理解することを目指す。なお本講義は、社会動向の変化に応じて柔軟に対応する実践心理学分野の発展講義として位置付ける。	
	心理検査演習Ⅰ	心理検査は、知的能力・作業能力・性格傾向を捉えるものとして、教育・医療・産業・司法などの多くの領域で行なわれている。心理検査Ⅰでは、ビネー式、ウェクスラー式(WAIS・WISC)などの知能検査のほか、老人の認知症の観察をする長谷川式簡易知能評価スケールなども取り上げる。また、特殊能力検査として、職業適性検査、作業能力をみる内田クレペリン精神作業検査法を、さらに、性格傾向や心の状態を知るための人格検査として、質問紙法(Y-G検査, MMPI, CMIなど)および投影法(ロールシャッハテスト, TAT, PFスタディ, SCT, 描画テストなど)を取り上げ、概説する。	
	心理検査演習Ⅱ	心理的アセスメントの初歩について、臨床実務の経験を踏まえ概説する。投影法は心理師として必須の心理検査であり、最も習得が困難であるとされているロールシャッハ・テストの施行法、分析法、解釈法などについて演習形式で学習をすすめる。最終的には、受講生が実施した事例を検討することで、より臨床的な理解を深めていく。そこで心理的アセスメントについての基本を習得する。ロールシャッハ・テストが正確に施行できる、ロールシャッハ・テストの分析法と解釈法の基本を身につける、ロールシャッハ・テストの所見書を適切に作成できることを目標とする。	
	面接法・介入法 (心理的アセスメント)	臨床心理面接は臨床心理学の基礎であり、臨床心理学の中で最も重要な領域の一つである。本講義では、臨床心理学の基礎知識や臨床心理面接の具体的な技法などについて解説する。その中でも、Iveyのマイクロカウンセリングについて詳しく取り上げる。Iveyは「どんなカウンセリングであれ、共通な技法がある」と考えた。講義では、ロールプレイやグループワークなどを通して学んでもらう。	共同
	人格・臨床心理学演習Ⅰ	本演習では、心理療法の分野において心理査定・治療技法として用いられている諸技法を体験する。まず導入として感受性訓練を行い、諸技法の体験に入る前のウォーミングアップを行なう。ついで、描画法を中心とした諸技法(コラージュ法、スクイグル法など)を、実際に体験しながら学んでいく。自らを表現し、内面を知る楽しさ・困難さを味わいつつ、臨床の場で、諸技法を用いてクライアントに心理療法的関わりをしていく際に重要となる、基本的な態度を身につけていく。さらに、文献等も参照し、セラピスト側の感情体験がいかに重要であるかについて理解を深める。	
	人格・臨床心理学演習Ⅱ	本演習では、心理療法の分野において心理査定・治療技法として用いられている諸技法を体験する。まず導入として感受性訓練を行い、諸技法の体験に入る前のウォーミングアップを行なう。ついで、描画法を中心とした諸技法(円棒家族画法、雨中人物画法など)を、実際に体験しながら学んでいく。自らを表現し、内面を知る楽しさ・困難さを味わいつつ、臨床の場で、諸技法を用いてクライアントに心理療法的関わりをしていく際に重要となる、基本的な態度を身につけていく。さらに、文献等も参照し、セラピスト側の感情体験がいかに重要であるかについて理解を深める。	
共生文化分野・	文化心理学	文化心理学では、人の価値観や物の見方を、社会生態学的環境や宗教・倫理的背景などによって影響を受けるものと位置づける。すなわち、人の心の働きは文化を反映して成立しているといえる。この授業では、自分自身についての捉え方、ものの考え方、意思決定の方法、他者との繋がり方、感情経験の程度や種類など個人のミクロな心理的活動について、文化というマクロな社会現象と相互作用する中で形成されていることを学習する。人の心理的活動を理解する中で、文化を切り離すことができないという視点から、心理学の学問知識への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要					
(心理学部心理学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門展開科目	多文化・共生分野	障害者・障害児心理学	障害と一言でいっても、障害の状態や生じる問題はさまざまである。本講義では、身体障害、知的障害、精神障害など、障害の種類と定義、その特徴について概説し、障害者・障害児が抱える諸問題に対する支援法に関して学んでいく。講義を通して、障害者・障害児それぞれの心理社会的課題を理解し、どのような支援を必要としているのか考える力を身につけることを目指していく。	
			教育心理学Ⅰ (教育・学校心理学)	本授業の目標は、子どもの成長に関する学校・教育心理学の基礎知識を学ぶことである。学校での経験は青年期までの発達に大きな意味を持つと考えられる。学習と発達に関する心理学的理論を確認しながら、学校での学習や対人関係について学ぶ。学校と教育心理学の基礎的な理論や知見を理解するとともに、自らのこれまでの学校での生活や教育について心理学的な視点から振り返り、これからの自らの成長や次世代育成について生かしていくための考察ができるようになることを目指す。	
			教育心理学Ⅱ	本授業では、学校という場所の独自性、特殊性をふまえつつ、様々な対人関係を通して発達する子どもを支えるための学校教育心理学的知見について学ぶ。基礎的な教育心理学の理論や知見を理解したうえで、応用的な学校心理学の知見や学校の現状について理解し、学校で子どもを支援する方法について心理学的視点から自分なりに考察できるようになることを目指す。	
			障害者教育総論	本講義では障害の種類、日本の障害児観や障害児を取り巻く環境の変遷について概説し、障害児教育の礎について学ぶ。障害を社会的不利の観点から、そして障害児(者)の発達を全人格的発達の過程から捉え、障害児(者)に対して家庭教育場面、学校教育場面、地域社会教育場面に於いて、どの様に全人格的発達を保障していったら良いのかについて思索し、理解を深めることを目指す。	
			肢体不自由者の自立活動の理論と実際	本授業は、脳性麻痺等肢体不自由児者の自立活動について、その理論を講義・討論し、支援法の実践を演習する。自立活動については、文部科学省が特別支援教育において定める『自立活動』の概要把握と理解を深めるだけでなく、障害者にとつての『自立』とは何か等の自立活動支援に向けての根源的理解を深めることを目的とする。そのために、アクティブラーニングの手法を用いて、既成の枠に捕らわれずに創造的概念構成をするための討論やロールプレイング等を実施する。	
			肢体不自由者の心理・生理・病理	本授業では、肢体不自由児者の心理・生理・病理について理解を深め、障害児者への適切な支援を行う基礎を形成することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)  (3 中島健一/5回) 肢体不自由児者の心理・生理・病理については、いわゆる一般論を学修するとともに、各種事例を通して、生活支援・教育支援等における支援の実際や特殊例についても学修する。なお、本授業は、単なる講義ではなく、小グループによるアクティブラーニングを行い、肢体不自由児者の特殊なニーズ・人としての共通なニーズに対する創造的支援法を考えることも目的とする。 (84 越智信彦/10回) 肢体不自由者の生理・病理について、支援に必要な基礎的な知識を学ぶ。生理については、感覚器官の仕組み、運動神経路などについて学び、病理については代表的なもの(身体障害と運動障害、重症心身障害児、脳性麻痺など)について理解し、具体的な支援方法を学ぶ。	オムニバス方式
			知的障害児指導法	本講義では、知的障害のある子どもたちの心理的・行動的特性について、また、子どもと関わるうえで欠かせない実践的なスキル等について学ぶ。特別支援教育や心理支援に携わる者としての心構えや、子ども一人ひとりの特徴に合わせた指導法について学ぶが、知識を深めるだけでなく、支援者としての基本的な姿勢を育み、状況に応じて柔軟に行動する力を養うことも重視している。	
異文化理解	「異文化」と呼ばれる対象は、国や民族が異なる地域や集団に限定されるものではなく、自らが所属する集団外に様々な階層性や大きさをもって存在する。この授業では、身近な生活の中に存在する異文化を認識することからはじめ、社会で生活する人々を集団として分類することの意味やその影響について心理学的に考察する。「異なる」集団について理解する中で、自己とのかかわり方や集団間の関係性を見直すことを目的とする。授業を通して多様な価値観を理解し、様々な集団が社会的に共存するために有効となる心理学的工夫についても学ぶ。				

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目 専門展開科目	多文化・共生分野	ケアマネジメント	本講義は、地域社会で人々が自立した生活を送るための包括的支援であるケアマネジメントの理論と実践について学修することを目的とする。具体的には、年齢(加齢も含む)、疾病や障害などの身体的、経済的、社会的要因から医療・保健・福祉のニーズを必要とする幅広い対象者の生活全般における多様なニーズへの具体的支援手法を学ぶ。また、当事者とその家族、支える医療福祉心理専門職の役割、地域住民へのリテラシー向上への具体的取り組みについても学ぶ。	
		発展講義c	急速な高齢化が進む現代において老年期における心理的支援のニーズが高まっている。一方で認知症やフレイルなどの問題への対応も迫られている。本講義では、老年期の理解・対応・支援に役立つ心理学的視点について学ぶ。高齢者の心理、老年期に生じやすい精神疾患および心理的問題に関する正しい知識を修得し、高齢者一人一人に対する心理学的支援方法を理解し、説明できることを到達目標とする。	
		発展講義d	ひとは生まれてから死ぬまで変化していく。そのような変化を心理学的な視点からとらえていくのが発達心理学であり、その中でも、青年心理学は青年期の発達について扱う学問領域である。この授業では、青年心理学の基礎的な事項について概説し、青年期特有の発達の变化や特徴についての概論を学ぶ。また、これらの概論について、事例を使ってさらに理解を深める。	
		発展講義e	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知について論じていく。人種、世代間の違いにより我が国における価値観は多様化しているといえる。その多様な社会の中で幅広いものを見方ができる能力を養い、自分の生活においてそれらの能力を役立てる方法を考えていく。本講義では態度の構造、ステレオタイプ、感情と認知、文化や進化との相互作用について論じ、社会的認知の特性を理解し、多様な社会における人間の対人行動に対する幅広いものを見方ができることを目指す。	
		発展講義f	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知について論じていく。人種、世代間の違いにより我が国における価値観は多様化しているといえる。その多様な社会の中で幅広いものを見方ができる能力を養い、自分の生活においてそれらの能力を役立てる方法を考えていく。本講義では社会的認知のメカニズム、ヒューリスティック、ショートカット、推論、バイアスについて論じ、社会的認知の特性を理解し、多様な社会における人間の対人行動に対する幅広いものを見方ができることを目指す。	
		発展講義g	グローバル化やIT化が進む現代社会の生活において、様々な価値観を持った人々と柔軟にコミュニケーションを行う必要性が高まっている。この授業は、異なった文化的背景を持つ個人や集団間のコミュニケーションを通して、多様な価値観の存在への気づきを促すことを目的とする。授業内のワークショップやグループワークを通して、コミュニケーションの複雑さ・難しさへの認識を深める。文化心理学や異文化理解の知識を活かしながら、コミュニケーションのあり方を考察し、日常生活や臨床場面への応用を目指す。	
		発展講義h	本授業の目的は、ヒトも含めた動物の行動の多様性について知ることである。動物はその環境に応じて、求愛や子育てといった繁殖のための行動、攻撃や防衛など自分たちやそのなわばりを守るための戦略、そして周囲の環境の変化を知るための学習・認知の機能を発達させてきた。これらがいかなる進化を遂げ、今ある形となり、どのような機能を持つに至ったかを考察する。これについて実験や観察に基づいた研究を紹介しながら、授業を進めていく。	
		発達・教育心理学演習Ⅰ	この授業では、子どもの発達の支援、特に学校に関する場面で子どもの成長をどのように支えればよいかについて考える。現代の子どもは社会環境の変化などにより、特に学校ではこれまでとは異なる教育が必要になっている可能性がある。学校での問題や予防教育、スキル教育などの試みについて各自が調べながら考える。児童期から青年期にかけての子どもを取り巻く問題や現状について知り、それらを解決もしくはサポートするために心理学からどのようなアプローチができるかについて考察し、今後の自らの発達や次世代育成について生かすことができることを目標とする。	
		発達・教育心理学演習Ⅱ	「やる気」をめぐる悩みは、子ども、そして大人にとって、身近で重大な問題である。モチベーションすなわち動機づけは、教育心理学の主要な課題のひとつであり、今日までさまざまな理論や研究が積み重ねられている。本演習では、動機づけに関する主要な理論について学び、人間の「やる気」の面白さや複雑さについて考える。内発的動機づけ理論やフロー理論、達成目標理論など、国内外で数多く研究されてきた動機づけ理論について、受講者自身の体験や身近な例も踏まえながら、発表やディスカッションを通じて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門展開科目	多文化・共生分野	社会・産業心理学演習Ⅰ	社会心理学、産業・組織心理学の基本的な知識を身につける。社会心理学では自己の諸側面として自己概念、自己開示、自己提示などを採り上げる。また、対人認知におけるさまざまなバイアス、たとえばステレオタイプなどに対する理解を深める。産業・組織心理学では、仕事への動機づけ、人事評価制度、人事測定の方法、採用、面接、職場の人間関係と意思決定などを採り上げる。
		社会・産業心理学演習Ⅱ	社会・産業心理学演習Ⅰに引き続き、社会心理学、産業・組織心理学の基本的な知識を身につける。社会心理学では社会的情報処理、態度変容の精緻化見込みモデルを採り上げる。また、さまざまな人間関係、集団関係、とくに葛藤を扱う。また、文化心理学にもふれる。産業・組織心理学では、リーダーシップ、職場もストレスとメンタルヘルス。組織における協力や葛藤、仕事の能率と安全、ヒューマンエラー、キャリア、消費者行動などを採り上げる。
	情報・ビジネス分野	産業・組織心理学Ⅰ	産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップについて解説する。社会的パワーはどのように把握できるのか、影響の与え方、しつけの文化差、パワーを志向するパーソナリティなどを採り上げる。また、リーダーシップ研究はどのように展開してきて、現在どのような展開が見られるのかについて解説する。特性論的アプローチ、状況論的アプローチ、そして特性論的アプローチの再評価、認知論的アプローチ、LMX、サーバントリーダーシップなどを採り上げる。
		産業・組織心理学Ⅱ	まずは組織とは何であるのかについての理解を深める。集合、集団といった概念との違いについて理解する。その上で、組織において重要な意味をもつ社会的影響（組織における服従行動と少数者の影響）、集団凝集性、人間モデルの展開、モチベーション、キャリアについて解説する。あわせて職場における問題に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動についてもふれる。
		データサイエンス入門	スマートフォンの普及や、科学研究における計測技術や通信技術の発展により、近年では社会に蓄積されるデータは量・種類ともに飛躍的に増大している。データサイエンスは、それらのデータの処理、分析を行い、データの中から価値のある情報を引き出すことを目的とする学際的な領域である。本講義では、データサイエンスにおけるデータとは何か、それらのデータを用いてどのような情報を引き出すことができるのかについて、様々な領域におけるデータ分析の実際の例を通じて学ぶ。
		感性工学	感性工学とは、人間の感性を物理的なデザイン要素に翻訳して、感性に合った商品やデザインを設計する技術の学問である。例えば、消費者が「シックなデザインの腕時計が欲しい」と思ったり、逆にデザイナーが「高級感の漂った電化製品を作りたい」と思ったりします。この時の「シックな」や「高級感」という感性を、機能を入れ込みながら、色や形などの具体的なデザイン要素に落とし込む技術である。本講義は心理学的要素をデザインに落とし込むための方法論について論じ、身の周りには様々な道具や物品の特性について考察していく。
		消費者行動論	本講義では、消費者の心理的、行動的側面～消費者の情報探索、情報取得、評価、意思決定、買物行動等～に関する基礎的な理論や概念を習得し、消費者に対する深い洞察力を身につける。また、消費者行動に関する知見が「モノが売れるしくみづくり」としてのマーケティングにどのように活用されているかを理解するとともに、自らマーケティング戦略を策定する方法を学ぶ。
		製品評価の心理学	製品評価の心理学とは、デザインが消費者（観察者）に与える心理効果をまとめた学問分野である。製品のデザインの良し悪しは、その物を受け入れるか否かの判断に影響しており、私たちの購買行動に強く関与している。デザイン心理学という言葉は最近できたばかりの用語で最先端の挑戦的な学問領域であり、消費者の潜在的嗜好、購買意欲等に大きな影響を与え、広告、デザイン、マーケティング等において非常に重要な要素となっている。本講義では視覚的なデザインが私たちの心理的活動や機能にどのように与える影響を与えるのかについて論じ、人にとって良いデザインとは何かを考察していく。
		多変量解析Ⅰ	卒論作成に役立つ具体的なデータ解析の方法の概要を解説し、卒論に応用できるようにすることを目指す。単なる統計ソフトの学習に留まらず、方法の基礎にある仮定や理論に関する初歩的知識を学ぶことを主眼とする。この授業では、心理学統計法のさらなる応用のために発展的な方法としてノンパラメトリック検定や因子分析を取りあげ、具体例と演習を中心に解説する。
		多変量解析Ⅱ	多変量解析Ⅰに引き続き、心理学研究に役立つ具体的なデータ解析の方法の概要を解説し、心理学研究に応用するための統計学の知識を得ることを目的とする。方法の基礎にある仮定や理論に関する発展的な知識を学ぶことを主眼とする。重回帰分析や構造方程式モデリング、ベイズ統計を中心として取り上げ、具体例と演習を中心に解説する。

授 業 科 目 の 概 要					
(心理学部心理学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門展開科目	情報・ビジネス分野	行動経済学	この講義では、行動経済学の基本的な内容を解説する。行動経済学は、従来の意思決定理論やゲーム理論に、実験的要素を加え、人間の意思決定におけるクセを理論に取り込むことで、実際の人間の行動を分析する分野である。そのため、講義ではまず、意思決定理論とゲーム理論の基本的内容を解説し、そこから、プロスペクト理論や現在バイアスといった、人間の意思決定におけるクセを取り入れていく。それにより、合理的な意思決定からずれる人間の行動を予測することや、また、ナッジと呼ばれる人の行動をより良いものにする仕組みを理解していく。	
			発展講義I	本講義では、私たちを取り巻く身近な住環境、すなわち生活の基盤である住まいや公共空間（学校、オフィス、駅、公園、街路など）の有り様が心身の健康に与える影響について事例を通して学んでいく。そのうえで、心身の健康が得られる快適な住環境のあり方を検討して提案できる力を養うことを目標としている。	
			発展講義J	私たちを取り巻く環境において、生活をサポートする様々な技術が活用されている。これらの形態は人の情報の獲得と処理と無関係ではなく、私たちの行動や認知の機能の特性を配慮した設計やデザインが施されている。本講義では自動車、製品表示、電化製品など様々な技術を取り上げ、認知機能の特性がこれらの技術開発にどのように影響しているのかについて解説する。なお本講義は、社会動向の変化に対して柔軟に対応する情報・ビジネス分野の発展講義として位置付ける。	
			実験心理学演習 I	ヒトの心理的機能を評価するための計測手法の習得を目的とする。コンピュータを用いた行動計測では、心理学実験プログラムによる反応時間やエラーの分析を行う。生体反応信号として重心軌跡動揺、視線計測、脳波を用いた評価方法を習得する。そしてこれらの計測方法の応用可能性について議論し、計測のための実験計画の立案を行う。	
			実験心理学演習 II	本演習ではPythonを使って、計測のためのプログラミング言語を習得する。Pythonは初学者にも学びやすいプログラミング言語の1つとして知られ、心理学、機械学習(AI)など様々な研究分野で利用されている言語である。各講義にてプログラミングの基礎や文法について理解し、それらを利用したプログラムの実装を体験していく。またAnaconda, PsychoPy等を利用し、研究等に必要の実験計測のためのプログラムの作成していく。	
			情報ビジネス心理学演習 I	Pythonは汎用的なプログラミング言語の一つで、学術研究への利用のほか、近年では機械学習や人工知能(AI)などへの注目もあり、ビジネスシーンでの利用も多い。本演習では、プログラミングの初学者を対象にPythonを用いたプログラミングを演習形式で学ぶ。Pythonのプログラムの基本的性質を理解し、プログラムの実行についての基本操作を身につけるとともに、機械学習のプログラムの自分で実装してみることを通じて、ニューラルネットワークなどの機械学習の理論の基礎的な理解を目指す。	
			情報ビジネス心理学演習 II	Rは統計解析に特化したプログラミング言語の一つで、学術研究への利用のほか、ビッグデータへの注目などから近年ではビジネスシーンでの利用も増えてきている。本演習では、Rを用いたデータ分析の基本を演習形式で学ぶ。Rのプログラミング言語としての基本的な性質を理解し、データの前処理やデータの可視化など分析に必須の技能を身につけるとともに、実際のデータ分析の文脈に応じて、データから価値ある情報を引き出す技術の習得を目指す。	共同
			デジタルデザイン演習	近年、バーチャルリアリティ(VR;仮想現実)や拡張現実(AR)の技術が急速に発展し、私達の日常生活に広がりつつある。また、これらの技術を使うことも容易になりつつある。VRやARは様々な心理的効果を生み出すことが分かりつつある。そこでデジタルデザイン演習では、仮想世界を容易に作成可能なUnityというゲームエンジンを使い、簡単な仮想世界を作成することで、今後更に広がるであろうVRやARへの理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 総合 科目	心理学実験Ⅰ	心理学実験Ⅰではヒトの知覚や記憶、社会的認知などの心の働きについて、実験を通じて学んでいくことを目的とする。8つのテーマ（精神物理学的測定法、視覚探索、記憶の二重貯蔵モデル、ストループ効果、注意の資源、パーソナルスペース、シナリオ実験、鏡映描写）のうち4つのテーマを取り上げ、科学としての心理学研究法の基礎を学ぶ。さらに測定データの統計分析を行い、分析結果に基づいた実験レポートのまとめ方の習得を目指す。 本実験実習は1テーマにつき1回2コマ×3週を割り当てる。受講生を8グループ（20名/グループ）に分割し、上述の8つのうち4つのテーマについて実験計測及びレポート作成を行う。 学生の習熟度に応じて、レポート作成の要点、統計分析に関する講義を実施する。またテーマごとに個別指導を行う。	共同 実験実習 12時間 講義 3時間
		心理学実験Ⅱ	心理学実験Ⅰではヒトの知覚や記憶、社会的認知などの心の働きについて、実験を通じて学んでいくことを目的とする。8つのテーマ（精神物理学的測定法、視覚探索、記憶の二重貯蔵モデル、ストループ効果、注意の資源、パーソナルスペース、シナリオ実験、鏡映描写）のうち4つのテーマを取り上げ、科学としての心理学研究法の基礎を学ぶ。さらに測定データの統計分析を行い、分析結果に基づいた実験レポートのまとめ方の習得を目指す。 本実験実習は1テーマにつき1回2コマ×3週を割り当てる。受講生を8グループ（20名/グループ）に分割し、上述の8つのうち4つのテーマについて実験計測及びレポート作成を行う。 学生の習熟度に応じて、レポート作成の要点、統計分析に関する講義を実施する。またテーマごとに個別指導を行う。	共同 実験実習 12時間 講義 3時間
		プレゼミナー	研究活動の基盤となる専門分野の知識、興味関心を深め、研究計画の立案を行う。個人またはグループで関心のあるテーマに関連する専門書籍や学術論文を精読し、それらの情報をまとめたプレゼンテーションを行う。そしてディスカッションを通じて、研究計画の再考を繰り返し、実現性の高い研究計画を構築していくことを目指す。このような過程を繰り返し実施することにより、論理的思考力や問題解決能力を身につける。また同時に、これまでの心理学実験実習、専門プレゼミ、心理学統計法で修得した知識や技能を整理し、研究遂行に必要な技術、材料等を整えていく。 （オムニバス方式/全15回）  （16 塚本早織 /7回） 論文のまとめおよびプレゼンテーション、研究に関する基礎知識に関する講義、演習を担当する。  （1 高木 浩人・4 中島 健一・5 中村 薫・6 榎原 雅人・8 石田 光男・9 牧田 潔・10 八田 純子・11 坂野 雄一・12 城戸 裕子・13 葛 文綺・14 谷 伊織・15 松岡 弥玲・16 塚本 早織・17 小野島 昂洋/8回）（共同） ゼミ希望調査後において各教員のゼミに配属し、専門分野に関する論文の精読とプレゼンテーションを実施する。	オムニバス方式・ 共同（一部）
		総合研究演習Ⅰ	研究活動の基盤となる専門分野の知識、興味関心を深め、研究計画の立案を行う。個人またはグループで関心のあるテーマに関連する専門書籍や学術論文を精読し、それらの情報をまとめたプレゼンテーションを行う。そしてディスカッションを通じて、研究計画の再考を繰り返し、実現性の高い研究計画を構築していくことを目指す。このような過程を繰り返し実施することにより、論理的思考力や問題解決能力を身につける。また同時に、これまでの心理学実験実習、専門プレゼミ、心理学統計法で修得した知識や技能を整理し、研究遂行に必要な技術、材料等を整えていく。	
		総合研究演習Ⅱ	総合研究演習Ⅰで立案した研究計画に基づき研究活動を遂行し、専門的知見について理解を深めていく。研究目的に応じて実験、質問紙調査、市場調査、文献調査などによるデータ収集を行い、得られたデータを適切により分析していく。そしてこれらの活動について適宜プレゼンテーションを行い、ゼミ内でのディスカッションにより、計画の妥当性、データの収集法の精度を検証していく。これらの一連の研究活動を通じて、計画、実行、評価、改善のプロセスを体験し、論理的思考力と問題解決能力を高めていくことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門総合科目	総合研究演習Ⅲ	各自の関心に基づいた研究活動を卒業研究としてまとめる。総合研究演習Ⅰ、Ⅱにて収集した実験や調査データの分析結果をまとめ、研究で得られた知見をわかりやすく情報発信するため情報の整理を行う。発案した研究計画において、明らかになった知見、未解決の問題、及び今後の展開など伝えるべき情報を整理することにより、他者へ伝える技能を高めていくことを目指す。まとめた内容は、学科全体で卒業研究発表会にて口頭またはポスターを行う。また卒業論文を選択した場合は、論文用の情報も同時に整理していく。	
		卒業研究	学士課程の集大成として、専門領域に関する卒業論文を完成させる。指導教員の指導とともに、これまでの講義、演習科目で修得した知識を活用しながら、総合研究演習Ⅰ～Ⅲでの研究活動を一つの論文としてまとめ上げる。学術的視点のもとに立ち、自らが疑問に感じる研究課題に対して真摯に向き合い、科学的に論述していくことを学ぶ。これらの一連の研究活動を通じて、論理的思考力と問題解決能力を高め、多様な領域で貢献するための礎を築くことを目指す。	
公認心理師専用科目		公認心理師の職責	公認心理師とは公認心理師法に基づいた心理職の国家資格である。本講義では公認心理師の業務やその職責を知り、心理師としての役割にとどまらず法的義務や倫理、多職種連携の重要性について理解し、国家資格の心理専門職としての責任と役割について学ぶ。保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について概説できるようになるとともに、自己課題の発見し積極的に解決する能力を身につけられるようになることを目的としている。 (オムニバス・共同方式/全15回) (9 牧田潔/7回) 公認心理師の業務やその職責を知り、心理師としての役割にとどまらず法的義務や倫理、多職種連携、心理師が活動する5分野の具体的な業務の概要について講義する。 (4 中島健一・9 牧田潔・10八田純子・13葛文綺/8回) (共同) 小グループに分かれてワークなどを通して心理師の責任と役割など職責の理解をさらに深める。	オムニバス方式・共同 (一部)
		福祉心理学	本授業は、社会福祉の歴史、各分野の現状と課題、社会福祉理論の変遷等の社会福祉の概要を把握するとともに、福祉的要支援者に対する心理支援の必要性と実践方法を学修することを目的とする。具体的には、生活保護受給者等生活困窮者、障害児者、被虐待児者・DV被害者、要支援要介護高齢者等の生活の実態、支援のポイントと介入の実態、現状と将来ビジョン等を学ぶことで、面接室面接型の心理職の働き方とは異なる生活支援型の働き方を身につけ、今後拡大するであろう公認心理師の職域に対応できる人材を養成する。	
		関係行政論	本講義では、「心の支援」を法律や制度から把握し、公認心理師が多様な専門家といかに連携し、要支援者の支援をすべきかを学ぶ。(1)保健医療、(2)福祉、(3)教育、(4)司法・犯罪、(5)産業・労働の5分野について関連する法律・制度を概観し、各人が生涯における折々のステージでどのような法律により保護され、支援を受けるかを学ぶ。本講義を通して、公認心理師に求められる役割を理解し、各々の協働する専門家と連携するための基礎的な知識を得ること、さらに「心の支援」に関わる法律や行政に関連する専門用語や概念を正確に理解し、基本的な法律や用語を説明できるようになることを目指す。	
		心理演習	本講義では、公認心理師としての基盤となる基本的知識及び技能の学修と習得を目的とする。心理的支援を要する対象者への1)コミュニケーション、2)心理検査、3)心理面接、4)地域支援等に関する知識及び技能の修得を図り、対象者理解とニーズの把握並びに支援計画の作成、チームアプローチについて理解を深める。また、多職種連携や地域社会での支援体制の構築を学ぶ。それらの学修を基として、公認心理師としての責務、倫理、法的義務を理解する。	共同
		心理実習Ⅰ	本実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野において公認心理師としての支援の実践から、心理に関する支援を必要とする者へのチームアプローチを学ぶことを目的とする。具体的には、子どもや保護者、高齢者、学校教育現場、司法・犯罪分野、職場のメンタルヘルスに関わる心理的支援の現状から、公認心理師がチームアプローチに果たす役割の理解と実践を学ぶ。	共同
		心理実習Ⅱ	本実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野において公認心理師としての支援の実践から、心理に関する支援を必要とする者への多職種連携の実践を学ぶことを目的とする。医療・保健、福祉現場における各専門職の役割と専門性、多職種との情報の共有と連携、地域包括ケアシステムなどの実践を学ぶ。また、各職種が準拠とする法律での職責や義務、役割を理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 用 科 目 公 認 心 理 師	心理実習Ⅲ	本講義では、公認心理師としての基盤となる基本的知識及び技能の学修と習得を目的とする。心理的支援を要する対象者への1)コミュニケーション、2)心理検査、3)心理面接、4)地域支援等に関する知識及び技能の修得を図り、対象者理解とニーズの把握並びに支援計画の作成、チームアプローチについて理解を深める。また、多職種連携や地域社会での支援体制の構築を学ぶ。それらの学修を基として、公認心理師としての責務、倫理、法的義務を理解する。	共同
資 格 取 得 科 目 特 別 支 援 教 育 に 関 す る 科 目	知的障害者の心理・生理・病理	本講義では、知的障害児（者）の障害特性や行動、日常生活や学校生活における支援の仕方、知的障害児（者）や発達障害児（者）の生理、病理について学び、理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)  (88 河合千丈/5回) 知的障害児（者）や発達障害児（者）の障害特性について例示ができること、知的障害や発達障害のある児童生徒の教育内容や指導・支援の仕方について説明できること、児童生徒の多様な実態に応じたかかわりができるようになることを目標とする。 (89 小森薫/10回) 知的障害者の生理について、神経系の解剖学の見地から学び、知的障害者の病理については、重要な周辺疾患（自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動症など）を中心に学び、理解することを目標とする。また、発達障害と非行問題や知的障害者の刑事判断能力についても学ぶ。	オムニバス方式
	病弱者の心理・生理・病理	本講義のテーマは病弱児の理解と支援である。病弱児の身体やその機能に関する基本的な事項、病弱児が抱える疾患や障害、その病理や心理について、視覚教材も使って講義する。病弱児の心理的・社会的な問題と支援についても広く理解を深める。本講義の到達目標は、以下の通りである。①各器官の基本的な働きを理解して疾患・障害を整理・分類できる。②主な疾患や障害を簡単に説明できる。③様々な資料を適切にまとめることができる。④まとめた資料をわかりやすく発表できる。	
	肢体不自由者教育論	本講義のテーマは発語発音指導法の習得と手話、指文字の活用である。本講義では、長年豊学校で培われてきた発語発音指導法を紹介し、その補助手段の一つとしてのキューサインに触れるとともに、手話や指文字の基礎を学び、聴覚障害者とのコミュニケーション方法を習得することを目的とする。本講義の目標は、聴覚障害児に対する発語発音指導の仕方を理解するとともに、手話や指文字を使用してコミュニケーションを図ることができるようになることである。	
	病弱者教育論	本講義のテーマは重複障害児・軽度発達障害児の育ち・成長・かかわりである。本講義では、特別支援学校教員として現場に出た際に、重複障害児・軽度発達障害児への適切な指導やその保護者の気持ちに寄り添う支援ができるための知識を学ぶ。本講義の到達目標は以下の通りである。①重複障害と軽度発達障害の子どもたちの教育の在り方について分かるようになる。②重複障害と軽度発達障害の子どもたちの心理、行動特徴や対応の仕方についても理解できる。③親や家族へのサポートについて理解し、考える力をつける。	
	視覚障害教育総論	本講義では、肢体不自由児（者）の障害特性について、肢体不自由児（者）の個々の実態や教育的ニーズに応じた教育内容や教育方法を具体的に学び、特別支援学校の様子にも触れ、肢体不自由者教育の現状や今後の在り方についても学ぶ。本講義の到達目標は以下の通りである。①肢体不自由児の障害特性や教育的課題について例をあげて説明ができる。②肢体不自由のある幼児、児童及び生徒に対する教育課程や指導・支援の基礎的事項について論ずることができる。③肢体不自由のある児童生徒の学校での様子から、教育的なかかわりの重要な点を説明でき、実践に生かすことができる。	
	聴覚障害教育総論	本講義では、病弱・身体虚弱児（者）の障害特性に関する基礎的な事項を理解した上で、病弱・身体虚弱教育に必要な知識を学ぶ。本講義の目標は以下の3点である。①病弱・身体虚弱児の病気の特性や教育的課題について例をあげて説明ができる。②病弱・身体虚弱の幼児、児童及び生徒に対する教育課程や指導・支援の基礎的事項について論ずることができる。③病弱・身体虚弱の児童生徒に対する教育的な関わりの重要な点を説明でき、実践に生かすことができる。	
	重複障害・軽度発達障害教育総論	視覚障害児に対する理解を深め、子どもたちの障害特性に配慮した効果的な教育支援・指導法について実践的に学ぶ。講義やワークショップを通して視覚特別支援教育に貢献できる教師としてのスキルを身につける。本講義では視覚障害児の心理、特別支援学校（視覚障害部門）における教育支援の基礎的理解を図る。到達目標は、①視覚障害児の心理、②特別支援学校における視覚障害児の支援方法、③通常の学級における視覚障害児の支援方法、④視覚障害児の障害特性をふまえた支援方法について、実践的に理解することにある。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 教養基幹科目	宗教学Ⅰ	世界には多くの宗教がある。それらの宗教が、歴史的に人々の心の支えや融合の源泉になったり、争いや離反の原因にもなってきた。その点、宗教は人間にとって「両刃の剣」といえる。国際化時代となった今日、異文化・異宗教を相互に認め合うことが肝要である。本講義は、「建学の精神」を踏まえ、原始宗教や民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラーム）などを概観し、人間と宗教の関係を探り、宗教の機能・役割・意義を認識させる。	
	宗教学Ⅱ	本講義は、主に仏教と禅の教えを中心にその歴史をたどり、その思想や信仰の一端に触れさせる。同時にその基本的教えの中から人間のあり方（人生観・人間観）および自然界や周囲の人々との密接な関係（世界観）を学び、それらの学習を通し、自己自身を主体的にとらえ、目的や使命感を持った積極的な生き方を身につけさせるように工夫する。	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅰ	教養部カリキュラムポリシーのひとつである「基礎学力の育成」に従い、文章表現力を高める過程を通じて「情報収集力や言語表現力」を、また、様々なテーマについて考える過程を通じて「課題発見力」「論理的思考力」「自己表現力」を培います。文章表現力及び考える力を高めるために2回の文章練習を実施し、【第1回】は「客観的に述べるための文章表現力」を身につけるために「自画像」を描く文章練習を、【第2回】は「読み手を納得させる文章表現力」を身につけるために「推薦したいもの」を述べる文章練習を行います。	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅱ	教養部カリキュラムポリシーのひとつである「基礎学力の育成」に従い、文章表現力を高める過程を通じて「情報収集力や言語表現力」を、また、様々なテーマについて考える過程を通じて「課題発見力」「論理的思考力」「自己表現力」を培います。文章表現力及び考える力を高めるために、春学期に引き続いて2回の文章練習を実施します。【第3回】は「分析力を高めた文章表現力」を身につけるために「討論型」の文章練習を、【第4回】は「総合的な論述力」を身につけるために「謎解き型」の文章練習を行います。	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅲ	この授業では、身の回りの様々な日本語表現を取り上げ、それらへの多角的な観察を通して「コトバ」と「文化」との関わり、「コトバ」と「社会」との関わり、そして「コトバ」と「人」との関わりについて楽しく探っていきます。	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅳ	グローバル化が進む今日において、多様な文化と価値観を学び、コミュニケーション能力を養う必要性が高まっています。当セミナーでは、イタリアの「美しい文化」と「生きた会話」を学んでいきます。イタリアの人々が行って来た「文化交流」や「コミュニケーション」の体験事例も紹介します。初めて学ぶ学生にもわかりやすいように、映像・音楽などの視聴覚教材を活用していきます。	
	哲学Ⅰ	古代ギリシアに始まり、キリスト教哲学、大陸合理主義、イギリス経験論を経て、ドイツ観念論に至るまでの、西洋哲学の歴史を概説する。その長い歴史を通じてつねに哲学者たちを刺激し続けてきたのは、「何が本当に存在するのか」というあらゆる問いの中でもっとも基本的な問いである。この問いは今日ではすでに解決されてしまったのか。それともたんに放置されているだけなのか。哲学者たちの思考を追体験しながら、このシンプルな問いが含意する豊かさや難しさを学んでほしい。	
	哲学Ⅱ	哲学Ⅰに引き続き、この講義では時代を現代（19世紀以降）に下って西洋哲学の歴史を紹介する。ただし、現代哲学についてはまだ標準的な哲学史理解というものが成立していない。強引に一つの流れに整理するのは避け、現象学、論理実証主義、構造主義など、代表的な学派や哲学者の各々についてその特色を概説する。存在の謎に迫る哲学的アプローチの多様性を、いくつかアクチュアルな論争も織り交ぜつつ紹介したい。	
	論理学Ⅰ	「彼が言うことならまちがいないよ、彼は論理的な人だからね」。そうだろうか？論理的な人とは、つねに正しいことを言う人だろうか？そもそも、論理とはいったい何ものだろう。私たちが一般にものごとを考えると、論理は私たちの思考のどのような場面で、どのように働くのか？この授業では、私たちの日常何気ない言語実践の分析から論理学の体系を作り上げていく、その初めの一步をじっくりと味わいながら、論理学という学問は何をやるようとしているのか、さらにはまた、論理的にものごとを考えるとということの意味について、基本的な理解を得ることをねらいとする。現代論理学を中心に取り上げるが、必要なかぎりですれ以前の論理学にも触れたい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	人文系	論理学Ⅱ	言語哲学は論理学を一つの母体として発展した哲学の一分野で、他の様々な経験科学との相互交流も含め、広範な問題意識へと連なる刺激的な研究領域をなしている。言語哲学は、ある一定の空気の振動なりインクの染みが、他の振動や染みにはない一定の意味をもつ、という現象への驚きから出発する。たとえば、日本語話者にとって、「ぼくはサッカーが好きだ」というインクの染みには意味があるのに、「ぼくはサッサーがスススーだ」とか「だぼく好きはがサッカー」には意味がない。なぜだろうか？あらゆる有意義な表現をあらゆる無意味な表現から区別する、統一的な意味の理論は存在するのだろうか？いやそもそも、ここでその有無が問われている意味とは一体何だろうか？この授業では、現代論理学ととくに深いつながりをもつ分析哲学系の議論を主に辿りながら、言語という現象の不思議に迫ってみたい。	
		文学Ⅰ	教養部カリキュラムポリシーのひとつである「基礎学力の育成」「リベラル・アーツの修得」に従い、日本語音声の特徴について考える過程を通じて、多様な知識を獲得すること、及び、一般的諸現象の背後にある原理を理解する深い洞察力を涵養すること、を目指す。 科目名は「文学Ⅰ」だが、この講義では、いわゆる「文学作品」は対象とせず、文学作品を含む様々な言語表現の根幹をなしている「日本語」そのものについて解説する。日本語には様々な側面があるが、この講義では、特に、今までほとんど注意を払ってこなかった「発音」を取り上げる。	
		文学Ⅱ	教養部カリキュラムポリシーのひとつである「基礎学力の育成」「リベラル・アーツの修得」に従い、日本語の文字・表記の特徴について考える過程を通じて、多様な知識を獲得すること、及び、一般的諸現象の背後にある原理を理解する深い洞察力を涵養すること、を目指す。 科目名は「文学Ⅱ」だが、この講義では、いわゆる「文学作品」は対象とせず、文学作品を含む様々な言語表現の根幹をなしている「日本語」そのものについて解説します。日本語には様々な側面がありますが、この講義では、特に、日常生活で当たり前前に使用している「文字・表記」を取り上げます。	
		美術Ⅰ	美術の基本理念に基づき、造形表現の多くのジャンルから感性の高い創造性豊かなものに触れ、視野の広い美意識を養う。この授業では視聴覚教材を使用して優れた作家や作品から豊かな感性を伝え、時代とともに変わる環境の移り変わりを見る。実技では、個々の感性に基づき形や色彩の構成や描写を重ね、表現力を養う。また、紙工作や切紙なども加え幅広い美の実感を味わうことが出来る。 なお、担当者は彫刻家として活動しており、制作者の立場から実技や鑑賞方法などについて指導する。	
		美術Ⅱ	美術Ⅰでの探る姿勢を基本に、本授業ではより明確な自己の美意識を高め、様々な視点で見出す美観を広げていく。	
	社会系	法学Ⅰ	私たちの社会におけるルールである「法」とは何か。基礎的な内容を身近な問題を例としながら講義する。『六法』とは何か。裁判のしくみはどうなっているのか。憲法の基本理念をどのように解釈し、日々の生活に役立っているのか等について、法の種類・性質、歴史も踏まえて整理する。法学Ⅰでは、憲法・刑法といった公法を中心とした内容を通して、物事を論理的・法的に考え、それを自分の言葉で他者に伝えることができるようになることを目標とする。	
		法学Ⅱ	法は、社会に生活する人間相互の権利・義務関係を定めた社会生活の規範である。私たちは、集団生活の中で多くの他人と複雑な交渉を持つことになる。物の売買・金銭の貸借などの取引関係、夫婦・親子などの身分関係、相続といった市民生活のルールの基本である民法を中心に整理する。これを通して、物事を論理的・法的に考え、それを自分の言葉で他者に伝えることができるようになることを目標とする。	
		政治学Ⅰ	現代の政治状況を的確に把握・理解し、分析できるようになることを目的に、政治学の諸理論や研究成果について検討する。一連の学習を通して、政治学に関する基礎知識を得ながら、現代社会における多彩な価値観を学び、論理的思考力・表現力・問題発見力を養う。扱うトピックスとしては、「政治」とは何か、現代国家の構成原理、政治思想とイデオロギー、政治における有権者の役割、マス・メディアと政治などが挙げられる。	
		政治学Ⅱ	現代の政治状況を的確に把握・理解し、分析できるようになることを目的に、政治学の諸理論や研究成果について検討する。一連の学習を通して、政治学に関する基礎知識を得ながら、現代社会における多彩な価値観を学び、論理的思考力・表現力・問題発見力を養う。扱うトピックスとしては、戦後日本の政治史、権力関係から社会を見る学問としての政治学、日本政治の制度と動態などが挙げられる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 教養基幹科目 社会系	経済学Ⅰ	経済社会の成り立ちや動きを理解するために、個々の家計や企業がどのような動機に基づいて行動を選択しているか、またその意志決定がどのように相互に関連しているかを「ミクロ経済学」という枠組みを使って考えることとする。具体的に、分業、需要と供給、価格メカニズム、市場の効率性、市場の失敗、市場の限界などを学習する。	
	経済学Ⅱ	経済社会の成り立ちや動きを理解するために、GDP、物価、雇用といった一国の経済全体の動きを決めるメカニズムを学ぶ。特に「マクロ経済学」で扱うトピックスを中心に概説する。具体的に、GDP、消費需要と投資需要、貨幣と金融、政府の役割、外国為替、経済成長などを取り上げて学習する。	
	社会学Ⅰ	この講義では、現代日本社会の個人・集団・社会の関係や仕組みについて論じていく。日常的で身近な事例(たとえば、「私」、「家族」、「役割」、「都市」、「若者」など)を具体例として題材にしながら、変化しつつある現代日本社会に特徴的な行為、関係、集団、現象について解説しつつ、現代日本社会を読み解くための基本的な概念や思考方法などを適宜紹介することで、私たちが生きる社会についてどのような見方・解釈の仕方ができるのかを提示していく。	
	社会学Ⅱ	この講義では、現代日本社会の個人・集団・社会の関係や仕組みについて論じていく。日常的で身近な事例(たとえば、「身体」、「感情」、「無意識」、「学歴」、「仕事」、「就職活動」、「自由」など)を具体例として題材にしながら、変化しつつある現代日本社会に特徴的な行為、関係、集団、現象について解説しつつ、現代日本社会を読み解くための基本的な概念や思考方法などを適宜紹介することで、私たちが生きる社会についてどのような見方・解釈の仕方ができるのかを提示していく。	
	教育学Ⅰ	人間は、集団や社会からの様々な影響を受けながら発達し、人間らしさを開花させていく存在である。人間の成長・発達にとって、また社会の発展において、教育の果たしてきた役割を歴史的社会的視点から学ぶ。それを通して、教育＝学校というイメージを問い直し、社会の中の様々な教育のあり方について認識を深める。また、教育とは文化の伝達を通して人間らしさや個性を開花させていく営みであるということ、学習者も教師も共に「揺れつ戻りつ」しながら発達する存在であるということを理解し、発達観、人間観を豊かにすることをねらいとする。	
	教育学Ⅱ	この授業では、現代社会における「子どもの貧困」問題に注目しながら、人間らしい暮らしとはどういうことか、子どもの人間的な発達を保障するために何が必要なのかを考える。「教育」とは人間形成をあるべき方向へ目的意識的に組織する営みであり、「福祉」とは健康で文化的な生活を営むための社会的な条件・基盤およびそれをつくる営みである。この観点に立ち、授業においては現代日本の子どもを取り巻く格差社会の厳しい現実を知り、学生が大学卒業後、労働者さらには家庭を持つ者として、人間らしい暮らしを実現しているよう、子育てのセーフティネットのあり方について認識を深める。その際、子どもの権利を大切にすることを重視して授業を行う。	
	歴史学Ⅰ	1. 日本の近代化の要因には進化した封建体制である幕藩国家が存在した。本講義は、その幕藩国家の解体過程をダイナミックかつ実証的に追求するものである。そこから学生諸君と同世代の草莽の志士達の行動原理や近代国家構想を理解させ、今後の国家建設の指針を学ばせるものである。 2. 英国は20世紀前半まで世界の超大国でありながら、第二次大戦後、植民地のほとんどを失って衰退した。英国はなぜ超大国になることができたのか? また英国はなぜ凋落を余儀なくされたのか? 歴史学Ⅰでは、18世紀から今日までの英国の外交史について取り上げる。	
	歴史学Ⅱ	1. 明治国家の歴史は西欧文明の衝撃・外圧のもとで、一国家が示した対応の記録である。この欧米列強の衝撃は、アジアの人々にとっては、それ以前とそれ以後の歴史を分断するほどの大事件となった。本講義は、欧米列強との緊張関係の中で、明治国家の指導者達に焦点を絞る。彼らが、欧米に肩を並べる近代国家を形成していった過程を追体験するものである。 2. 今日、中国の行く末ほど世界的に注目を集めているテーマはないだろう。果たして中国は米国を凌ぐ世界の超大国になるのだろうか? 五十年後、百年後の中国像を予測するに当たって、我々はまず過去500年間の中国の歴史について理解すべきであろう。歴史学Ⅱでは、明朝から中華人民共和国に至る＝500年間の中国の歴史について取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	社会系	地理学Ⅰ	1950～2010年、20世紀の後半から現在までの60年間を対象として、日本の地域と都市の変化を、人口・工業・都市機能の3点から平易に解説する。そして、これらの変化に影響を与えた地域政策について解説する。20世紀の後半、日本はあらゆる点において大きく変わった。豊かになり生活は便利になった。地域や都市も大きく変わった。その事実を時代の変化とともに解説する。さらに、毎回スライドを用いて、外国の地域や都市との比較を行い、知見を広める授業を行う。	
		地理学Ⅱ	最初に日本の都市について都市機能の集積と景観の変化について、点と面の両視点から検討する。その時に経済的中枢管理機能という都市機能を主指標とする。最初に日本の都市を検討することによって世界の都市を検討する基礎を提示する。その後、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・アフリカのいくつかの国を取り上げ、都市と都市システムの比較検討を行う。	
	自然系	数学Ⅰ	21世紀に入り数学は大きな変化を遂げ、それまでとは全く異なる観点から数学自身が語られるようになった。そのような流れの中で、「集合」や「論理」など今までとはとうい数学の対象として考えられないものまで扱われるようになり、ゲーデルの不完全性定理のように、多くの実りある結果も得られた。数学Ⅰでは、このような学問の習得に必要な「集合」や「論理」などの基本テクニックを習得しするが、これは通常の数学とは異なり、中学生程度の数学の知識と常識的な思考力があれば、十分習得できるものである。さらに論理や集合を用いた思考方法で、世界情勢、世の中の仕組み、歴史の展望、その他も分析する。	
		数学Ⅱ	21世紀に入り数学は大きな変化を遂げ、それまでとは全く異なる観点から数学自身が語られるようになった。そのような流れの中で、「集合」や「論理」など今までとはとうい数学の対象として考えられないものまで扱われるようになり、ゲーデルの不完全性定理のように、多くの実りある結果も得られた。数学Ⅱでは、現在数学基礎論の重要な応用であるコンピュータの基礎理論、人工知能の研究で用いられている概念を勉強するが、これも数学Ⅰと同様、常識的な思考力があれば、十分習得できるものである。	
		統計学Ⅰ	人々が集まる社会では古くから人口や耕地面積の調査が国家的になされてきた。集められた個々の資料から全体としての特性を把握する手だてとして、統計的方法は発達し今日では広く用いられている。全数調査の場合には記述統計の方法がある。一方、推測統計学の不確実性をともなう理論は確率論に根拠を置いている。統計学Ⅰでは記述統計について実習するとともに、確率と確率分布を取り上げ秋学期に備える。	
		統計学Ⅱ	統計の調査はしばしば標本を取り出してなされる場合がある。部分である標本の情報から全体の特性を測る方法として、推測統計学を学ぶ。様々な分野で用いられる「推定」や「検定」とはどのようなものであろうか。統計の数値に潜む事柄を洞察する土台を培うことを目標とする。	
		物理学Ⅰ	物理学は、物事がなぜそうなるのかを理解しようとする学問である。自然現象だけでなく、社会現象や経済の動きを理解しようとする物理学も存在する。地球で暮す私たちにとっては、25℃一気圧の空気中で起こることが自然に思えるが、宇宙空間に目を向ければ、地球環境が非常に狭い範囲に限られていることに気が付く。「速さ」は「1秒間に進む距離」で測るが、ブラックホールに近づけば、時間とは何か、距離とは何かから考え直さなければいけなくなる。物理学Ⅰでは、自然現象を理解する基本になる力学や光学の分野を中心に講義を進める。	
		物理学Ⅱ	物理学では、実験や観察によって、与えられた環境と事物の振る舞いとの間には法則性を見出そうとする。そして、それらの法則を組み合わせることで、異なる環境の下で事物がどう振る舞うかを予想しようとする。従って、物理学が見出す法則は、実験や観察手法の高度化によって新しい現象が発見されるにつれ、次々と新しくなっていく。物理学Ⅱでは、暮らしに応用されている熱学や電磁気学の分野を中心に講義を進める。物理学Ⅰ・Ⅱの学習は、急速に変化する社会情勢や地球環境を理解し、どのように振る舞っていくべきかを考える手助けになるはずである。	
		化学Ⅰ	化学は物質に関する学問である。原子、分子、化合物、物質の状態など、基本事項について解説し、食品、生命、環境などとの関わりを理解させながら、暮らしに関する疑問を化学的な説明により解き明かしていく。また、古代の物質感から近代化学へと、化学がどのように進化してきたのか、化学の歴史についても取り扱う。	
		化学Ⅱ	化学Ⅰと同様に、化学の基本事項について説明しながら、薬品、生活、環境、エネルギー、産業などとの関わりを理解させながら、これらに関する疑問を化学的な説明により解き明かしていく。化学は単に知識を詰め込むものではなく、「なぜ？」と考えることが重要であり、受講生に、科学的な考える力を身につけさせることも目的の一つである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	自然系	生物学Ⅰ	地球に生活しているすべての生物は、太陽からのエネルギーに培われている。そのエネルギーを食物に利用できるのは植物の光合成に限られていることを知り、生態系とのつながりを理解する。生物学Ⅰでは、これらを踏まえて人間と環境との共生関係を学習し、生物学Ⅱで学習する生態系の維持、保全がいかに重要であるか、を認識することができる人材を育てる。
		生物学Ⅱ	生命科学の発達にともない、遺伝子検査や遺伝子治療、ゲノム編集など、遺伝子とは何か、を理解することが必要とされている。生物学Ⅱでは、一般教養として関連の新聞記事を理解することができるレベルの基礎知識を身につけることを目指す。さらに、環境問題が遺伝子に与える影響、人間による環境の変化がもたらす地球レベルでの危機など、これらを統合的に理解し、生物多様性のもつ意義を認識し、社会貢献ができる人材を育てる。
		情報科学Ⅰ	この授業はC言語のコンパイラを利用してコンピュータ言語を学び、C言語の基礎的なプログラミングを学ぶ。C言語は40年以上前に開発された言語だが、この言語を基に様々な言語が派生しており、C言語でプログラミングの基礎を学ぶ事は非常に有用である。C言語では文字の取り扱い方に厳格な取り決めがあり、文字の表示や入力の方法、文字列(複数の文字の並び)を処理する方法を学ぶ。
		情報科学Ⅱ	この授業は春学期に引き続きC言語の基礎的なプログラミングを学ぶ。C言語は40年以上前に開発された言語だが、C言語を基に様々な言語が派生しており、C言語でプログラミングの基礎を学ぶ事は非常に有用である。C言語ではビットの操作や、構造体という考え方が有りこれらによりデータを処理する方法などを学ぶ。
	主題系	仏教と現代社会Ⅰ	本科目のテーマは「現代社会と仏教」である。このテーマに関連する領域は実に広範である。講義では以下の三つの課題を念頭において考察を行ってゆく。 1) 仏教者の言葉は現代人にどのような指針を提供できるのか。 2) 仏教的世界観や世界イメージは今日の我々にどのように映るのか。 3) 多様化する現代社会において仏教はいかなる役割を担う可能性があるのか。 講義期間の前半は「仏教の言葉」、後半は「仏教のイメージ世界」について紹介する。受講者諸氏には講義内容を思索の糸口にして更に自身の洞察を深めてほしい。
		仏教と現代社会Ⅱ	現在、坐禅が日本だけではなく世界でも注目を集めている。それは単に坐って瞑想を行うだけと受容されているのではなく、新たな思考方法や生活スタイルとして浸透し始めている。本講義では禅が人々を惹きつける要因を様々な観点から学ぶ。主に前半では禅がどのように発展してきたかという歴史を学び、禅の基礎知識を身につける。それらを踏まえた上で後半では禅の現状を採り上げ、現代社会の中で禅が果たす役割を考察する。
		禅と人間Ⅰ	日本文化の形成に重要な役割を果たした「禅」を、思想・実践の面からとらえ、理解することをめざす。インドで生まれ、中国で禅宗に発展し、わが国にもたらされた禅の思想を、歴史的展開の中で理解していく。特に、中国の禅宗で生まれ、禅の学習に広く用いられた公案(過去の禅の指導者たちの禅問答)を講読することによって、その中に含まれる仏法や教訓を見出ししていく。また、禅の実践の核心である坐禅の体験を通じて禅を体感する。
		禅と人間Ⅱ	禅を人間のいとなみの中で理解していく。人間のいとなみは、文化という形で現れることがある。特に日本文化形成において、禅は重要な役割を果たした。そこで、文化という側面から禅を理解していく。また、禅のいとなみの中心となる坐禅は、さとりをもたらす修行法とされるが、瞑想の一種としての精神健康を維持、増進する効果もあるとされる。そこで、坐禅の姿勢、意識状態に着目し、心理学的知見を紹介しながら坐禅の理解を深めていく。
		生命に関する諸問題Ⅰ	私たちの日常生活には「生と死」に関連するさまざまな事象がある。「生と死」というテーマは古来からいろいろな立場や観点から探求されてきた。それだけこのテーマを解決することは難しいことだと思われる。講義では、物理学・化学・生物学・医学の自然科学系分野の担当者がそれぞれの観点からテーマに関する問題を提起する。そこから種々の知的発見や喜びが味わえることを期待する。
		生命に関する諸問題Ⅱ	私たちの日常生活には「生と死」に関連するさまざまな事象がある。「生と死」というテーマは古来からいろいろな立場や観点から探求されてきた。現代では、脳死や尊厳死、再生医療、出生前診断など、生と死をめぐる様々な社会問題が起きている。本講義では、仏教学・思想史・宗教学・哲学・心理学などの人文・社会科学系分野の多様な観点から考察し、生きるということおよび死ぬということの意味を見出ししていく。

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 教養基幹科目 主 題 系	人間行動の理解 I	心理学で扱う多くの事象や理論は、仮説に基づいた実験や調査で得られたデータを基にしている。本講義では、受講生のみなさん自身に、実験者および実験参加者を体験してもらうことによって、仮説の検証に関する考え方からデータの収集方法および結果の解釈に至るまで、心理学の基本的な方法論についての理解を深めてもらいたい。また、各実験課題が終わるごとに実験の方法と結果を報告するレポートを作成することにより、適切なデータ報告の方法を習得してもらう。	
	人間行動の理解 II	現代社会において、事件・事故、虐待など様々な出来事や問題が報道されている。そんなにも大事にならないまでも日常において、友人や家族、学校や職場の中ですれ違いや溝の深まりといった人間関係のいざこざや混乱は枚挙にいとまがない。心理学はひとのこころを理解するための学問だが、その中でも臨床心理学はその知識を活用して人間同士の理解を深めていく学問である。相手の気持ちになって相手の悩みや苦しみを受けとめる態度、つまり共感的理解が相手をより深く理解することに繋がる。発展講義3b（特殊講義3b）では、心理療法のひとつである「交流分析」を取り上げ、その基礎的知識および技法を概説する。	
	人間の尊厳と平等 I	現代日本では自明とされる「人権」だが、往々にして踏みにじられるものでもある。よって、様々な憲法や法規への学びを通して、「人権」の意義を知り、また、人類が「人権」をどのように確立してきたかを学ぶ。続いて、仏教の人間観を通して、平等と差別に対する根源的な思想を各自に学んでもらいたい。そのために、インド・中国・日本と展開した仏教史の中から、本講義に関係ある諸事象を抽出し、考察する際の題材として提供する。	
	人間の尊厳と平等 II	現代日本では自明とされる「福祉」だが、社会の制度として確立されるには、先人達の大変な努力があった。本講義では、近代国家による社会福祉確立前の諸状況を確認する中で、宗教や仏教が果たした役割を考察する。その上で、近現代の日本における宗教・仏教による社会福祉がどのように行われ、また、今後の展望についても探り上げたい。	
	日本の文化と社会 I	まず足利尊氏を中心に室町幕府の成立を理解した後、義満による幕府権力の確立と公家支配を学ぶ。南北朝を合一させるにとどまらず、公家・寺社・武家が分立してきた封建社会を強い力で統合した義満の権力は、平安末以来の中世社会の重要な到達点である。武士主導の新時代は戦国時代の前史として重要なだけではない。勘合貿易や能の大成など以後に続く社会・文化的できごとが起きている。	
	日本の文化と社会 II	戦国時代は研究の進展により、新しい大名像・社会像が提示されている。まず戦国前史として、義満没後の将軍専制が応仁の乱の誘引となったことを学ぶ。続いて東国では幕府権威と対抗的な今川・北条・武田の三国同盟の成立、続いて将軍と連携した幕府再興で戦国終焉を目指す上杉謙信と三国同盟の対決として、川中島合戦を読み解く。合戦の実像も見直した上で川中島合戦の実際を復元する。一方、西国大名は東・東南アジアとの交易活動を展開していた。二つの動きは戦国大名が上洛して幕府に代わり天下するという、一般的な視点とは別の戦国大名・社会像を提示している。最後に雑兵に視点を向ける。寒冷化で飢餓状態が一般化した中、食べるための戦争として農民が他国の民衆を襲い、略奪や人狩りを展開していたのが戦国社会であり、応仁の乱で京都が焼亡した主因である。	
	アジアの文化と社会 I	この授業では、中国の博覧会の歴史について取り上げる。清朝末期の中国初の博覧会、中華民国時代の博覧会、中華人民共和国前半時代の博覧会、そして2010年の上海万博などについて時代ごとに見ていく。さらに日本が中国を侵略した時代の台湾、中国、日本における博覧会をもそれぞれ論じる。博覧会史を通して、中国の近現代史、並びに日中関係史についても理解を深める。	
	アジアの文化と社会 II	昨今、沖縄の基地問題が大きくクローズ・アップされ、改めて在日米軍の存在意義について議論がなされるようになった。また近年、北朝鮮の核の脅威だけでなく、中国の海軍力増強にも注目がなされるようになった。我々はこうしたアジア社会における安全保障問題を考えるに当たって、ナショナリズム感情に流されることなく、冷静にものごとを論じるように心がけるべきである。この授業では、具体的なアジア社会における安全保障問題を織り交ぜつつ、安全保障理論を基礎から取り上げる。	
	ヨーロッパの文化と社会 I	芸術の都パリ。パリはファッションや美食、エッフェル塔やナポレオンのほかに、広場でバイオリンを弾く音楽家や、似顔絵を描く画家など芸術家の多く住む町である。そして、パリはまたボードレール、ランボー、ヴェルレーヌなどの活躍した、フランス象徴主義詩人たちの文学的都となっている。講義では、現在のパリの原型が造られた19世紀に、パリの街を苦悩と誇りをもって歌い上げた『悪の華』の詩人ボードレールを、その生き様の中にとらえてみる。また、講義では、ビデオを利用して、パリにおける文学的背景の理解に努める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	教養基幹科目	主題系	ヨーロッパの文化と社会Ⅱ	近代に入ると西ヨーロッパのユダヤ人たちは居住地の社会に同化し、その発展の担い手となった。とりわけドイツ語圏では、ユダヤ人の寄与によって豊かな文化的果実が実った。しかし、ナチスによるユダヤ人虐殺という惨劇が生じた。19世紀以降ドイツ語圏において活躍した著名ユダヤ人の生涯と業績を手掛かりにユダヤ人のドイツ文化への寄与について考察する。
			英語圏の文化と社会Ⅰ	英語圏の言語仕様と文化的な関係について様々な角度から考察していく。アメリカ文学、アメリカ演劇、イギリス文学といった言語芸術を通して、言語表現の中に内在している文化・社会的な価値観を考察していく。また言語と社会の関係についても、英語圏におけるコミュニケーションに関する分析を通じて、言語表現とその意味や、歴史的・文化的背景を持った脈絡が言語の意味に対してどのように相互作用を及ぼすのかを考察していく。
			英語圏の文化と社会Ⅱ	英語圏の言語仕様と文化的な関係について発展的な角度から考察していく。英語圏の文化と社会Ⅰで取り扱ったものとは別のアメリカ文学、アメリカ演劇、イギリス文学の作品を通して、言語表現の中に内在している文化・社会的な価値観をさらに広範囲に、また深く考察していく。また言語と社会の関係についても、英語圏における言語的な地域的変種、社会的変種を概観しながら、どのような社会的な要因が作用して、それぞれの英語という言語のシステムを作り上げているのかを考察していく。
			人間と環境Ⅰ	近年いわゆるビッグバン(宇宙の誕生)から現在までの歴史を総合的に研究する新しい学問分野として注目されているのが「ビッグヒストリー」である。これは、自然科学と人文社会科学の諸分野を総合した学際的アプローチを用いて、これまでの歴史学よりも長い時間枠・大きな文脈で人間存在の意味を探究するものである。本授業では、その視点を踏まえて「人間と環境」について考えるが、特に宇宙の誕生から人類(ホモ・サピエンス)の誕生に至る過程を中心に検討する。
			人間と環境Ⅱ	近年いわゆるビッグバン(宇宙の誕生)から現在までの歴史を総合的に研究する新しい学問分野として注目されているのが「ビッグヒストリー」である。これは、自然科学と人文社会科学の諸分野を総合した学際的アプローチを用いて、これまでの歴史学よりも長い時間枠・大きな文脈で人間存在の意味を探究するものである。本授業では、その視点を踏まえて「人間と環境」について考えるが、特に人類(ホモ・サピエンス)の誕生以降について重点的に検討する。
			情報と社会Ⅰ	21世紀はIT革命が進行する高度情報化社会の中で生きることになると言われる。それは、技術の進歩とともに到来するメディア情報のネットワーク社会でもある。同時にそこには、未解決の人類の問題も残されている。本講義では、現在の情報化・国際化が、20世紀後半にたどった道をふりかえったうえで、今後取り組まねばならない課題を日本の立場から一つずつ検証し、今後のわれわれの生きかたへの示唆を与えたい。取り上げる課題は「情報化・国際化・環境問題」をキーワードとする。
			情報と社会Ⅱ	情報化された社会において数多くのデータがあってもそれらが連携していないため有効に生かせなかったことからそれらを内部的、外部的に総合的かつ有機的に組み合わせてデータ分析を行い、予測や仮説、問題提起からその解決支援まで行うデータマイニングとテキストマイニングが行われるようになった。高度情報化社会ではデータに基づいた意思決定が重要である。このような考え方を学ぶために主にSPSSとRを使い社会調査の数値データと定性データ分析からデータマイニングを学ぶ。
			産業と科学Ⅰ	資源に乏しい日本は科学技術を柱に発展してきた。その柱は繊維、鉄鋼からエレクトロニクス、さらにITへと変遷している。これらの産業を支えるために、動力源として多くの発電所が作られたが、水力発電所や原子力発電所は大消費地から離れたところに作られている。作られた電気を有効に使うために送電も重要である。 この講義では、液晶を中心としたディスプレイの仕組みを出来るだけ数式ではなく、素材や製品を回覧し、視覚的に理解しやすい情報を用いながら、科学技術の基礎を学ぶ。
			産業と科学Ⅱ	資源に乏しい日本は科学技術を柱に発展してきた。その柱は繊維、鉄鋼からエレクトロニクス、さらにITへと変遷している。その中で、テレビ(ディスプレイ)は20世紀最大の発明品であると言われている。映像を見ない生活が考えられない現在、それらはディスプレイにより表示されている。 この講義では、液晶を中心としたディスプレイの仕組みを出来るだけ数式ではなく、素材や製品を回覧し、視覚的に理解しやすい情報を用いながら、科学技術の基礎を学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養基幹科目	主題系	ソフトウェア概論Ⅰ	コンピュータは現在では、ワープロや表集計ソフトなどを便利に使う道具、またはインターネット端末としての機能のみが注目されている。しかしその潜在的な能力は、さらに高いものがある。 本講義では、N88BASIC というコンピュータ言語を学ぶことにより、コンピュータのさらに進んだ機能を学び、主体的に問題を解決できる道具として使いこなせることをねらいとする。	
		ソフトウェア概論Ⅱ	コンピュータは現在では、ワープロや表集計ソフトなどを便利に使う道具、またはインターネット端末としての機能のみが注目されている。しかしその潜在的な能力は、さらに高いものがある。 本講義では、Java というコンピュータ言語を学ぶことにより、コンピュータのさらに進んだ機能を学び、主体的に問題を解決できる道具として使いこなせることをねらいとする。またそのソフトを、ホームページ上で動かすことを学習する。	
		健康の科学	ウェイトコントロール、喫煙行動の修正、アルコール依存症、運動やスポーツ行動などさまざまな健康行動は、個人の態度や価値が複雑に介入するために、理解していながらもそれを解消するための行動を直ちに行うとは限らない。人々の健康行動を規定する諸要因を解明することは、生涯にわたる健康づくりを推進する上でも極めて重要である。健康への意欲的な知的好奇心と探究心を持ち、健康を取り巻く社会的問題に対する思考力を高め、将来にわたり必要な情報や知識を獲得する	
教養教育科目	英語	外国語科目	英語Ⅰa	日本人とネイティブスピーカーによるチームティーチングを行いながら、オーラルコミュニケーションに対応できる基礎力の養成を行う。具体的には春学期と秋学期にそれぞれ担当者を交代して、日本人による聞き取りのポイント指導、ネイティブスピーカーによる発話の表現指導を行う。教材として日常生活に関連した会話から、TOEIC等の検定試験に対応したものまで幅広く扱い、広範な聞き取り・発話能力の育成をめざす。
			英語Ⅱa	英語Ⅰaでの指導を基礎とし、聞き取り能力の育成、発話能力の育成を行う。日本人教員とネイティブスピーカー教員が秋学期に担当クラスを交代して、オーラルコミュニケーションに対応できる基礎力の養成を行う。教材として日常生活に関連した会話から、TOEIC等の検定試験に対応したものまで幅広く扱い、広範な聞き取り・発話能力の発展的育成をめざす。
		英語Ⅰb	英語の読解力を養成することを目的とする。時事的なトピックや社会的なテーマを扱った長文を読み、内容把握や必要な情報が収集できる実践的能力の養成をめざす。授業では構文のような基本的な事項から語彙、文章構成や修辭法等についても広く学習し、多角的に理解できるように指導する。またTOEIC等の検定試験にも対応できる読解力の養成を行う。	
		英語Ⅱb	英語Ⅰbを基礎として、さらに発展的に英語の読解力を養成することを目的とする。英語Ⅰb同様に時事的なトピックや社会的なテーマを扱った長文を読み、内容把握や必要な情報が収集できる実践的能力の養成をめざす。授業では構文等の基本的確認、強化を行いながら、着実な読解力の育成をめざすとともに、語彙力の強化を図る。またTOEIC等の検定試験にも対応できる読解力の養成を行う。	
		英語Ⅰc	英語の表現力を養成することを目的とする。英文を書くために必要な基本的な文法事項、表現形式を修得して、英文を書いて英語による自己表現力の修得をめざす。授業では英語の構文等の基本的事項を確認し、日常生活によく使われる英語の慣用表現・語彙力の強化を図りながら、英語らしい英文が書けることをめざす。それとともに、英語の総合力の強化を図る。また、将来の英語学習に応用できる力を育成する。	
		英語Ⅱc	英語Ⅰcを基礎として、さらに発展的に英語の表現力を養成することを目的とする。授業では日常生活の様々な場面で必要とされる英語表現・慣用表現を学習し、文法知識及び語法を踏まえて、英文構成力を身につけ、正確な英文が書けることをめざす。それとともに、発信型の英語力の強化を図る。特に、将来の社会生活に役立つ電子メール等の作成を視野に入れて、実践的表現力の育成をめざす。	
		ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の初級文法を学びながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を身につけ、ドイツ語のコミュニケーション能力、読解力を培う。また、同じゲルマン系の言語である英語や、母国語である日本語とも比較しつつ言葉について考え、世界の多様な文化・価値観への理解を深めるとともに、論理的な思考力・基礎学力を養成する。
			ドイツ語Ⅱ	ドイツ語の初級文法を学びながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を身につけ、ドイツ語のコミュニケーション能力、読解力を培う。また、同じゲルマン系の言語である英語や、母国語である日本語とも比較しつつ言葉について考え、世界の多様な文化・価値観への理解を深めるとともに、論理的な思考力・基礎学力を養成する。

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語科目	中国語	中国語Ⅰ	中国語の学習において最も重要なものは発音である。ピンインという中国語独自のローマ字表記を用いて発音の学習、練習を行う。その上で入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。
		中国語Ⅱ	春学期の中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。春学期と同様に双方向型の授業を行う。
	フランス語	フランス語Ⅰ	フランス語の基本文法を覚えるとともに、挨拶や買い物などの短文を暗記し日常会話に慣れる。テキストの短い例文を繰り返し反復することで、フランス語のリズムを身につける。 フランス語を学ぶことは、世界的視野において物の考え方を知ることの第一歩であり、フランス人のエスプリを楽しみたい。
		フランス語Ⅱ	フランス語の基本文法を覚えるとともに、挨拶や買い物などの短文を暗記し日常会話に慣れる。テキストの短い例文を繰り返し反復することで、フランス語のリズムを身につける。 フランス語を学ぶことは、世界的視野において物の考え方を知ることの第一歩であり、フランス人のエスプリを楽しみたい。
	韓国語	韓国語Ⅰ	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、講義計画に基づいて韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。併せて、韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める第一歩とすることをそのねらいとしている。「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解を深める。
		韓国語Ⅱ	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、授業計画に基づいて韓国語に関する基礎知識と運用力を育成する科目である。併せて、韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める第一歩とすることをそのねらいとしている。春学期に引き続き、「ハングル」を理解したうえで、初級レベルでの文法、単語などを覚え、「読む」「書く」「聞く」「話す」という総合的なコミュニケーション能力を高める。
	文化事情	ドイツ文化事情	ドイツ語圏は現在にも影響を及ぼしている数多くの思想家を生み出している。カント・ヘーゲル・マルクス・ニーチェ・フロイト等の考え方を学ぶことで、未来構築への視点を提供する。
		中国文化事情	古い歴史を持ち、現在も首都である北京には故宫や頤和園をはじめ、様々な史跡名勝がある。また、四合院、胡同などの北京特有の様式を持つ古い町並みも残されている。北京という都市の歴史的背景を学ぶことで、中国という国の文化を学び、授業では映像による史跡の紹介や中国映画による歴史の紹介をしていく。 語学の学習には、ことばの背景にある文化を捉えることも必要になる。それを学んで初めて、中国語ということばが理解できた、と実感できることもたくさんあるはずである。
		フランス文化事情	個人の自由を大事にするフランス人の生き方を、日本人の生活と比較しながら考える。私たちは一般的に外国人も自分たちと同じような習慣で生活していると考えがちだが、必ずしもそうではなく、フランス人特有の人間関係や社会制度を取りあげて考察していく。
		韓国文化事情	日本と深い関わりのある韓国・朝鮮半島の文化・社会・歴史・経済などについて、基礎知識を紹介する。基礎知識を理解する上で、日本と比較しながら様々な観点から客観的に考える力を身につける。それによって「韓国・朝鮮半島の文化」全般に対して正しく理解することができるようになる。
	エレクトイブ	英会話Ⅰ	初級レベル英会話能力の育成を目的とする。Ⅰでは、自己紹介したり、気持ちを伝えたり、ある事柄についての好き嫌いや感想を述べたりできるようになることが目標である。授業は、学生が抱く英会話への興味や憧れを大切に、リラックスした環境で会話練習ができるよう配慮する。また、授業は、ビデオ等を活用して実際に会話が行われる状況を体感し、現実感を持って学習できるように工夫される。学生は、豊富なりスニング練習・対話練習を通して、英語によるコミュニケーション能力の基礎を築くことができる。
		英会話Ⅱ	初級レベル英会話能力の育成を目的とする。Ⅱでは、一人でもなんとか海外旅行ができる程度の英会話力を身につけることが目標である。授業は、学生が抱く英会話への興味や憧れを大切に、リラックスした環境で会話練習ができるよう配慮する。また、授業は、ビデオ等を活用して実際に会話が行われる状況を体感し、現実感を持って学習できるように工夫する。学生は、豊富なりスニング練習・対話練習を通して、英語によるコミュニケーション能力の基礎を築くことができる。

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語科目 エレクトイブ	英会話Ⅲ	中級レベル英会話能力の育成を目的とする。Ⅲでは、あるテーマについて、二人以上のグループ内で意見を出し合えるようになることが目標である。短い文を連ねて自分の考えを言えるようになればよい。自分の意見をより正確に伝えられるよう、語彙力・表現力も少しずつ高めていく。授業は、学生が抱く英会話への興味や憧れを大切に、リラックスした環境で会話練習ができるよう配慮する。学生は、豊富なリスニング練習・会話練習を通して、英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことができる。	
	英会話Ⅳ	中級レベル英会話能力の育成を目的とする。Ⅲに引き続き、あるテーマについて、二人以上のグループ内で話し合えるようになることが目標である。流暢でなくとも、自分の考えを言えるようになればよい。自分の意見をより正確に伝えられるよう、語彙力・表現力も少しずつ高めていく。授業は、学生が抱く英会話への興味や憧れを大切に、リラックスした環境で会話練習ができるよう配慮する。学生は、豊富なリスニング練習・会話練習を通して、英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことができる。	
	メディア英語Ⅰ	メディア英語Ⅰは人気のある現代のファンタジー映画に焦点をあてたフィルムスタディーズのコースである。この講義では受講者は現代のメディアにおける英語のクリティカルシンキング(批判的思考)の表現とリスニング、リーディング、ライティングのスキルを練習する。	
	メディア英語Ⅱ	メディア英語Ⅱは神話映画に焦点をあてたフィルムスタディーズのコースである。ギリシャ神話、北欧神話、イギリス神話に基づいた3つの主要なファンタジー映画を鑑賞し、人気のファンタジー映画に取り入れられたテーマや神話や言語について学ぶ。 この講義ではリスニング、リーディング、ライティングスキルの向上、英語での考えを表現するためのクリティカルシンキング(批判的思考)を探ることを目標とする。	
	メディア英語Ⅲ	メディア英語ⅢはSFとファンタジー映画に焦点を当てたフィルムスタディーズのコースである。この講義は以下の2つを目標とする。 ①ファンタジー映画の映画鑑賞やワークシート/レポートを通じて、リスニングとライティングのスキルを向上させる。 ② 批判的思考、自己表現を使用し、各映画のテーマやメッセージを理解できるようにする。	
	メディア英語Ⅳ	メディア英語ⅣはJKローリングのハリー・ポッターの魔法の世界に基づいたフィルムスタディーズのコースである。この講義は以下の2つを目標とする。 ①リスニングの理解力、慣用語、表現、流暢さを向上させる。 ②これらの映画のテーマやアイデアについて批判的に考え、理解できるようにする。	
	英語表現法Ⅰ	英文法に対する理解を深め、英語表現力(作文力・会話力)を向上させることを目的とする。ただし、この授業においては、英文法を単なる規則として学ぶのではない。英語のネイティブ・スピーカーの「感覚」を押さえ、「どのような理由でこのような表現になるのか」を学んでいく。これにより、中学校と高校の6年間で習ってきた「英語の型」としての文法事項が、肌で感じられるような生き生きとした事柄として理解できるようにする。	
	英語表現法Ⅱ	Iと同様に、英文法に対する理解を深め、英語表現力(作文力・会話力)を向上させることを目的とする。英語のネイティブ・スピーカーの「感覚」を押さえ、「どのような理由でこのような表現になるのか」を詳しく学ぶ。これにより、文法事項の一つ一つが、肌で感じられるような生き生きとした事柄として理解できるようになる。理解が深まれば、今度は学生自身が誰か別の学習者に、英文法をわかりやすく説明できるようにもなる。	
	英語表現法Ⅲ	英語表現法Ⅰ・Ⅱの上位科目である。Ⅰ・Ⅱでは扱わなかった文法事項に焦点を当て、英語表現力のさらなる向上を図る。ネイティブ・スピーカーの英語感覚がつかめるよう丁寧に解説し、練習問題に取り組みせて、学生がその「感覚」を自分のものにできるよう指導する。この授業を通して、より深く正確に英文を理解できるようになるため、学生はTOEICのスコアを押し上げたり、英語で書かれた専門書から正確な情報を読み取ったりできるようにもなる。	
	英語表現法Ⅳ	授業内容は英語表現法Ⅲに準ずる。Ⅲまで扱っていない文法事項に焦点をあて、英語表現力のさらなる向上を図る。ネイティブ・スピーカーの英語感覚がつかめるよう丁寧に解説し、練習問題に取り組みせて、学生がその「感覚」を自分のものにできるよう指導する。この授業を通して、より深く正確に英文を理解できるようになるため、学生はTOEICのスコアを押し上げたり、英語で書かれた専門書から正確な情報を読み取ったりできるようにもなる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	外国語科目 エレクトイブ	英語読解法Ⅰ	この授業は、英文を効率よく読むためのテクニックを習得することを目的とする。スキミング（読んでいる文章の大枠を把握する）やスキニング（求める情報をすばやく探し出す）といった速読のための技術から、各段落のメイン・アイデア（トピック）や、文章全体の構成（2つ以上の物事を比較している文章なのか、因果関係を説明している文章なのか、など）を把握するといった詳細な内容分析の技術まで、さまざまな読むための技を伝授する。
		英語読解法Ⅱ	英語読解法Ⅰと同様に、英文を効率よく読むためのテクニックを習得することを目的とする。Ⅰで身につけた技術を確実にマスターするために、多読練習を行う。教材として英字新聞の記事、英米文化についてのエッセイ、英検に使用される長文問題、TOEICの長文問題などを教材として利用する。時には、興味深い、またはドキドキするような物語を読み、楽しみながら英語を読むことも経験させて、自ら英語の本を手取る習慣を身につけさせる。
		英語読解法Ⅲ	英語のビジネス文書を読めるようになりたい、あるいは所属学部の高学年で使用される専門書（原書）を読める力をつけたいなどと考えている学生向けのコースである。この授業では、やや難解な文章であっても、正確な英文解釈と日本語訳ができるようになることをめざす。そのために英和辞典を使用して、根気強く精読練習を積み重ねる。TOEICに使用されるようなビジネス文書や英語論文などを教材として使用する。
		英語読解法Ⅳ	英語教師になることを目指している、あるいは大学院への進学試験に対応できる英文読解力をつけたいなどと考えている学生向けのコースである。授業方針は英語読解法Ⅲと共通であり、やや難解な文章であっても、正確な英文解釈と日本語訳ができるようになることをめざす。そのために英和辞典を使用して、根気強く精読練習を積み重ねる。教員採用試験の英語問題、大学院の英語入試問題、英語論文などを教材として使用する。
		実践英語Ⅰ	実践英語はTOEIC対策を目的とする授業である。Ⅰは入門編に当たる。まずは、日本の多くの企業が人事の際にTOEICの成績を考慮に入れている事実を伝え、学生の学習意欲を喚起する。それから、TOEICの問題形式の説明と解答方法の説明し、実際の出題形式に合わせて作成された練習問題に取り組みせる。解答については詳細に説明し、なぜその答えになるのかという疑問の一つ一つを答える。また適宜、効果的な学習法や解答テクニックも指導する。
		実践英語Ⅱ	実践英語はTOEIC対策を目的とする授業である。Ⅱでは500点獲得をめざす。解答時間を設定して、実際の出題形式に合わせて作成された練習問題に取り組みせる。解答については詳細に説明し、なぜその答えになるのかという学生の疑問を一つ一つ解消する。また適宜、既習問題の復習を行い、実力の定着を図る。500点を目標とする場合、特にリスニング力の向上が鍵となる。リスニング練習には音読（発音できない表現は聞き取れない）を取り入れることによって、聞き取れる語彙や表現を地道に増やす。
		実践英語Ⅲ	実践英語はTOEIC対策を目的とする授業である。Ⅲ及びⅣは、600点以上の獲得をめざす学生を対象とする。実際の出題形式に合わせて作成された練習問題に取り組みせ、その復習をさせることで、リスニング力、語彙力、文法力、読解力を確実に伸ばす。リスニングでは、学生は特に会話や説明文の内容を聞き取る問題を苦手とする。的を絞って情報を聞き取る練習に取り組み、その後音読練習・ディクテーション練習を行うことによって、長文の聞き取りに対応できる力をつける。
		実践英語Ⅳ	実践英語はTOEIC対策を目的とする授業である。Ⅲ及びⅣは、600点以上の獲得をめざす学生を対象とする。実際の出題形式に合わせて作成された練習問題に取り組みせ、その復習をさせることで、リスニング力、語彙力、文法力、読解力を確実に伸ばす。600点あるいは700点以上の獲得をめざす学生にとって、リーディング・セクションでの正解率向上が欠かせない（解答時間120分間のうち半分以上の75分間を占める）。語彙力のさらなる増強を図ると共に、英語のビジネス文書をより短時間で効率よく読む練習に力を注ぐ。
		ドイツ語Ⅰ（基礎）	ドイツ語の初級文法を学びながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を身につけ、ドイツ語のコミュニケーション能力、読解力を培う。また、同じゲルマン系の言語である英語や、母国語である日本語とも比較しつつ言葉について考え、世界の多様な文化・価値観への理解を深めるとともに、論理的な思考力・基礎学力を養成する。
		ドイツ語Ⅱ（基礎）	ドイツ語の初級文法を学びつつ、ドイツ語の使用に必要な「読む」「書く」「聞く」「話す」力を養う。最終的にはテキストを正しく発音できること、辞書の力を借りて、正確な日本語訳ができること、単語の置き換えによって基本表現を応用できることを目標とする。Ⅰでは、発音の規則から始め、文法の基礎となる動詞の人称変化、名詞の格変化を中心に、前置詞の応用までを学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	外国語科目	エレクトイブ	ドイツ語Ⅲ(読解)	ドイツ、オーストリアの文化を紹介する教材を用い、初級のドイツ文法を復習しながら、中級ドイツ語への橋渡しをめざす授業である。読解力を身につけるために、多くのドイツ語の文章に触れさせ、様々な文法の練習問題を扱うが、テキストを読むだけでなく、授業を通じてドイツへの関心を高め、「話す」力、「聞く」力、「書く」力の向上も目指してゆく。Ⅲaでは、特に文章の基本構造や名詞の格変化の正確な理解を身につける。
			ドイツ語Ⅳ(読解)	ドイツ、オーストリアの文化を紹介する教材を用い、初級のドイツ文法を復習しながら、中級ドイツ語への橋渡しをめざす授業である。読解力を身につけるために、多くのドイツ語の文章に触れさせ、様々な文法の練習問題を扱うが、テキストを読むだけでなく、授業を通じてドイツへの関心を高め、「話す」力、「聞く」力、「書く」力の向上も目指す。Ⅳaでは、未修得の接続法や関係代名詞なども学ぶ。
			ドイツ語Ⅲ(表現)	日常生活を題材としたドイツ語文を読みながら、初級で学習したドイツ語の基本構造を復習、確認し、未修得の文法事項を補う。「聞き取り」「話し方のトレーニング」により、ドイツ語の口語的表現の理解を深め、中級ドイツ語への橋渡しをめざす授業である。Ⅲbでは、文法の基本である動詞の人称変化、名詞の格変化の自由な応用に重点を置く。
			ドイツ語Ⅳ(表現)	日常生活を題材としたドイツ語文を読みながら、初級で学習したドイツ語の基本構造を復習、確認し、未修得の文法事項を補う。「聞き取り」「話し方のトレーニング」により、ドイツ語の口語的表現の理解を深め、中級ドイツ語への橋渡しをめざす授業である。Ⅳbでは、接続法、関係代名詞など、一層複雑な文法の応用も学ぶ。
			ドイツ語Ⅲ(総合)	文法を中心に学んだ初級のドイツ語から、実際に応用する中級ドイツ語への橋渡しをめざす授業である。ドイツでの異文化体験のDVD教材等を用い、学生のドイツへの関心を高めながら、LL機械を使つての発音練習、独作文、読解と総合的なドイツ語の応用に取り組んでいく。Ⅲcでは、正確な発音と格変化・人称変化の応用を確実に身につけることに重点を置く。
			ドイツ語Ⅳ(総合)	文法を中心に学んだ初級のドイツ語から、実際に応用する中級ドイツ語への橋渡しをめざす授業である。ドイツでの異文化体験のDVD教材等を用い、学生のドイツへの関心を高めながら、LL機械を使つての発音練習、独作文、読解と総合的なドイツ語の応用に取り組んでいく。Ⅳcでは、基本文法的应用に加え、未修得の接続法や関係代名詞なども学ぶ。
			ドイツ語会話Ⅰ	この講義では、ドイツ語の基礎文法や基本的な語彙を学習した学生を対象に、基本的な文法を再度勉強しながら、多くの会話パターンの練習に取り組む。Ⅰでは、やさしいドイツの歌謡曲の歌詞を勉強したり、聞いたりすることによって、特にドイツ語のリズムや発音を身につけさせる。
			ドイツ語会話Ⅱ	この講義では、ドイツ語の基礎文法や基本的な語彙を学習した学生を対象に、基本的な文法を再度勉強しながら、多くの会話パターンの練習に取り組む。Ⅱでは、基本例文を暗記し、単語の置き換えなどによる反復練習を通じて、日常会話におけるドイツ語の応用力を身につけさせる。
			中国語Ⅰ(基礎)	中国語を初歩から学ぶ。中国語は日本語と同じ漢字を用いるが、発音の体系が日本語とは大きく異なる。中国語の発音はローマ字による「ピンイン」を使って表記するが、春学期の授業ではまず「ピンイン」を学び、発音の基礎を固めることから始める。その後、中国語の基本文型を学んでいく。発音や聞き取りの練習にも十分な時間を充て、映画などの映像教材も多く取り入れていく。
			中国語Ⅱ(基礎)	春学期に学んだ発音や文法事項を踏まえ、より多くの文型を学んでいく。中国語は日本語の語順とは全く異なるので、きちんと構造をとらえることが大切になる。また、春学期同様、習った文型を使って学生が実際に中国語で言ってみる練習を多く取り入れていきたい。
			中国語Ⅲ(読解)	1年間中国語を学んだ基礎の上に、さらに一歩進んだ中国語の力の養成をめざす。1年次に学んだ事項を復習するとともに、さらに多くの中国語の文型を学ぶ。教材としては1年次で学習した会話文ばかりでなく、簡単な中国語の文章も使用する。併せて映像・音声教材を利用することによって、音声による学習も取り入れる。様々な教材を用いて、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の読解力及び総合的な力を身につけることをめざす。また、授業の中では中国語の検定試験の対策も行い、資格取得の手助けも行う。

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語科目 エレクティブ	中国語Ⅳ（読解）	春学期の中国語Ⅲ（読解）をうけて授業を進める。より高度で、使用頻度の高い文法項目、頻出する単語を取り上げ、それらを学習することによって、中国語の読解力及び運用能力の養成をめざす。文章もより複雑で難易度の高いものを使用するが、文字のテキストばかりでなく、時には映像・音声教材も利用して、目だけに頼らない中国語の学習も取り入れる。読解力の養成はもとより、中国語を使って色々表現する練習も同時に行う。また、春学期の中国語Ⅲ（読解）と同様に中国語の検定試験の対策も行う。	
	中国語Ⅲ（表現）	一年間習ってきた中国語をさらにレベルアップする。この授業では、中国語の文章を読みながら様々な表現を学び、自分で文章を作ることを目指す。今年度はHSKの資格取得にも力を注ぎ、授業は教科書を使って中国語文法の理解を深めていくが、それと並行して、副教材やHSKの問題集にも取り組んでいく。また、HSKでは、多くの学生が不慣れな聞き取り問題も出題されるため、映画などの音声や映像などのせりふを聞き取ることで、中国語の様々な表現を学んでいきたい。	
	中国語Ⅳ（表現）	春学期と同様に中国語の文章を読みながら様々な表現を学び、自分で文章を作ることを目指す。HSKのトレーニングも、より上級の試験に合格できるよう、練習に取り組んでいく。中国語のレベルアップに役立つよう、様々な教材を通して中国語の仕組みが理解できることを目指す。	
	中国語Ⅲ（総合）	1年間中国語を学んだ基礎の上に、さらに一歩進んだ中国語の力の養成をめざす。学習者は1年間中国語を学んだといっても、それはほんの基礎であって、実際の文章を読み、会話をするにはまだまだ十分ではない。この授業では1年次に学んだ事項を復習するとともに、簡単な中国語の会話文や易しい文章を読み、併せて映像・音声教材を利用することによって、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の読解力、初歩的な会話能力など中国語の総合的な力を身につけることをめざす。また、中国語の検定試験の対策も行う。	
	中国語Ⅳ（総合）	中国語Ⅲ（総合）をうけて授業を進める。春学期に引き続き、重要な文法項目を取り上げ、それを用いて、「読む」、「聴く」、「話す」など中国語の総合力の養成をめざす。文字のテキストばかりでなく、映像・音声教材も利用して授業を進めることによって、日本語とは異なる中国語の構造に対する理解を深め、中国語の運用能力の向上をはかる。中国語を使って色々表現する練習も増やし、それによって中国語を「使う」ことを実感してもらい、中国語への興味を高められるようつとめる。また、中国語の検定試験の対策も行う。	
	中国語会話Ⅰ	中国語の初歩を学ぶ。外国語を学ぶ際に最も重要なものの一つが発音である。特に中国語は漢字を用いるため、外国語を学ぶという意識がどうしても稀薄になりがちになる。そのため、他の外国語以上に発音を重点的に練習する必要がある。したがって、春学期の中国語Ⅰでは発音の練習に重点を置くことになる。その際、ピンインという中国語独自のローマ字表記を用いて発音の練習を行うため、授業ではまずこのピンインの習得を第一の目標とする。そして、発音の練習を一通り終えた後、簡単な中国語の文型を学び、中国語習得への基礎固めをする。	
	中国語会話Ⅱ	中国語Ⅰで学んだ基礎の上に中国語の学習を進めて行くが、ただ、初級の段階では常に発音に気をつける必要があるため、発音については引き続き練習を行う。それとともに学習する語彙を増やし、色々な文型を学んで行き、中国語の構造に対する理解を深めながら、中国語の初歩的な運用能力を習得することをめざす。中国語には動詞の変化などといった面倒な規則はなく、原則的には語順で文の意味が決定する。その点を強調して日本語とは異なる中国語の構造を学ぶことによって、言語というものに対する理解も深める。	
	フランス語Ⅰ（基礎）	この講義は、初めてフランス語を学習する人を対象とする。第一の目標として、発音や文法を覚えるとともに、簡単なフランス語の文章が辞書を引くことで読めるように持って行く。綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。また、基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。そして次の目標として、話す、書くといった発信型の学習も適宜組み込んでいく。	
	フランス語Ⅱ（基礎）	この講義は、初めてフランス語を学習する人を対象とする。第一の目標として、発音や文法を覚えるとともに、簡単なフランス語の文章が辞書を引くことで読めるように持って行く。人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。また、平易なフランス語文を訳読し、暗記する。そして次の目標として、話す、書くといった発信型の学習も適宜組み込んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語科目 エレクティブ	フランス語Ⅲ(読解)	1年次に学んだフランス語の基礎をもとに、それをさらに発展させ、応用することを目的とする。さらに、発信型作業を目的としているので、その前提としての受信型作業も重視する。具体的には、実用フランス語技能検定試験の過去問を主な教材として、基礎的文法事項の復習、簡単な表現および読解、基本的な聞き取り練習等を行う。フランス語の会話文や比較的読みやすい文学作品の文章を訳読し、その中で基本的な表現を暗記する。	
	フランス語Ⅳ(読解)	1年次に学んだフランス語の基礎をもとに、それをさらに発展させ、応用することを目的とする。さらに、発信型作業を目的としているので、その前提としての受信型作業も重視する。具体的には、実用フランス語技能検定試験の過去問を主な教材として、基礎的文法事項の復習、簡単な表現および読解、基本的な聞き取り練習等を行う。会話文の中で描かれる日常生活のユーモアを読み解き、人生の指針となるような文章は暗記して覚える。	
	フランス語Ⅲ(表現)	フランスは文学の愛好家が多いと同時に、映画制作の盛んな国でもある。そこでこの講義では、文学や映画の中からフランス語の初級者にも分かりやすい会話の部分を取り出して読むことにする。日常会話のビデオを見ながら、1年次で学習した文法事項を復習しつつ、新しいフランス語の表現についても学習する。フランス語の会話文を読みながら、その口語表現が持っている微妙なニュアンスを読み取り、使用頻度の高い文は暗記する。	
	フランス語Ⅳ(表現)	フランスは文学の愛好家が多いと同時に、映画制作の盛んな国でもある。そこでこの講義では、文学や映画の中からフランス語の初級者にも分かりやすい会話の部分を取り出して読むことにする。日常会話のビデオを見ながら、1年次で学習した文法事項を復習しつつ、新しいフランス語の表現についても学習する。フランス語の文学作品が描き出す人間感情の機微を読み取り、感動した文は暗記して覚える。	
	フランス語Ⅲ(総合)	この授業では、フランス語の会話文を読みながら、その口語表現が持っている微妙なニュアンスを読み取るようにする。また短文の反復や言い換えにより、実生活に結びついた表現を確実に身につけることが大事である。そこでフランスで生活する気持ちになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、日常会話を優しく学ぶ。	
	フランス語Ⅳ(総合)	この授業では、フランス語の会話文を読みながら、その口語表現が持っている微妙なニュアンスを読み取るようにする。練習問題による言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の構造を確実に身につけることが大事である。そこでフランスで生活する気持ちになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、日常会話を優しく学ぶ。	
	フランス語会話Ⅰ	基本的な口語表現を練習することによって、実用的なフランス語表現の使い方を覚えるように訓練する。下記のテーマを学習する。1. 挨拶する 2. 招待する 3. 人物や事物の描写 4. 命令と依頼 5. 問い合わせと注文 6. 評価すること	
	フランス語会話Ⅱ	基本的な口語表現を練習することによって、実用的なフランス語表現の使い方を覚えるように訓練する。下記のテーマを学習する。1. 物語ること、報告すること 2. 祝福すること、お礼を言うこと 3. 不平を言うこと、叱ること 4. 説明し、正当化すること、意見を述べること 5. 許可を求めること、禁止すること 6. 議論と討論	
	韓国語Ⅰ(基礎)	この講義は韓国語を全く習ったことのない初心者を対象とし、まずはハングルを一通りマスターすることに主眼をおく。具体的に子音・母音・書き方とそれぞれの正確な発音の練習を始め、簡単な単語・文章など徐々に総合的な学習になっていきます。この授業では韓国語の文字と発音の基本的な構造について正しく理解することを目標とする。	
	韓国語Ⅱ(基礎)	韓国語Ⅰ(基礎)を修了した学生に、韓国語の「読む・書く・聞く・話す」の4機能を総合的に学習していくことになる。簡単な文章の読み書きを始め、基本的な挨拶表現が使えるように習得することを目標とする。	
	韓国語Ⅲ(読解)	この講義では韓国語の文字がわかり、簡単な単語の読み書きと聞き取りができる学生を対象とし、日常会話の場面を想定した文章を使って、文法的な面を中心に学習し、簡単な文章の読み書きと会話ができるレベルまで引き上げる。コミュニケーションの訓練とともに、文法と公文の理解、表現力を身につける。また、旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。	
	韓国語Ⅳ(読解)	この講義では韓国語の文字がわかり、簡単な単語の読み書きと聞き取りができる学生を対象とし、日常会話の場面を想定した文章を使って、文法的な面を中心に学習し、簡単な文章の読み書きと会話ができるレベルまで引き上げる。定型表現の学習は、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	エレクトイブ	韓国語Ⅲ(表現)	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象にし、さらにレベルアップした基礎文法を学ぶ。コミュニケーションの訓練とともに、文法と構文の理解、表現力を身につける。また、韓国旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。
		韓国語Ⅳ(表現)	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級韓国語を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習はもちろん、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。
		韓国語Ⅲ(総合)	この授業は韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学習者を対象にして、6月と11月に実施されるハングル能力検定試験5級に合格することを目標とする。外国語を学ぶ目的は様々だが、この授業を通して、資格を取って実際に役に立つ実用的なものにして欲しい。
		韓国語Ⅳ(総合)	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級韓国語を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習はもちろん、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。
		韓国語会話Ⅰ	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。受講生をグループやペアに分け、学んだ表現を用いた会話文を考え、実際に話してみるにより、積極的に韓国語を話す機会を与える。話す力と聞く力を身につけ、簡単な日常会話を交わすことができるようになることを目指す。
		韓国語会話Ⅱ	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。受講生をグループやペアに分け、学んだ表現を用いた会話文を考え、実際に話してみるにより、積極的に韓国語を話す機会を与える。話す力と聞く力を身につけ、自分自身の趣味や嗜好・夢について語り合ったり、一日の日程や一週間の予定を話し合うこと、店での買い物や注文・支払いができるようになることを目指す。
教養教育科目	健康総合科学科目	スポーツ科学Ⅰ	本授業で取り上げるスポーツ種目は、個人スポーツとチームスポーツである。個人スポーツでは、基本的なルールや基礎技術の修得に努めるとともに、その種目の特殊性及び興味性を知ることによって、生涯スポーツとして幅広く活用できることを目指す。またチームスポーツにおいては、ルールや技術面のみならず、チームの構成員として個々の役割を認識することによって、協調性・自制心・責任感などを養い、各人の能力を活かしたチーム形成を創意工夫し、自己表現能力の向上をねらいとする。
		スポーツ科学Ⅱ	本授業では、スポーツ科学Ⅰで培われた、個人スポーツ種目ならびにチームスポーツ種目の基礎的技術の修得をさらに進めるとともに、これをさらに発展させ、技術のみならず審判もできるような的確な判断力も養成する。さらには、生涯にわたる健康づくりとの関係性についても加味した内容の授業を行い、スポーツが健康に果たす意義について理解を深める。また、スポーツを通じた社会的な役割への演繹性をさらに深めるために、スポーツ科学Ⅰで教育効果として設定した協調性・自制心・責任感などの観点を意識し、それらの向上を目指す。
		スポーツ科学Ⅲ	スポーツ科学Ⅲは、スポーツ科学Ⅰ・スポーツ科学Ⅱにおいて修得した技術をさらに深めたい学生、また、過去にクラブ活動などに参加していた者で、その種目を生涯スポーツとして継続したい学生を対象として設定している。そのため各学生の個人的能力に応じた指導やチーム編成を行う。それにより、同じ種目を行っているにも拘らず、より高度な技術の修得が可能となり、高いレベルの競技特性が理解できるようになる。さらには生涯スポーツとして幅広く取り組むことができるようになることも目的としている。
		スポーツ科学Ⅳ	スポーツ科学Ⅳは、スポーツ科学Ⅰ・スポーツ科学Ⅱ・スポーツ科学Ⅲにおいて修得した技術をさらに深めたい学生を対象として実施している。また技術のみならず、そのスポーツ種目が持つ戦術や技能面に関しても深めていく。その一方で、運動不足を補いたい学生についても対象とし、健康づくりや健康管理に役立つスポーツの役割や理論的背景についても実践を通して学ぶ。その上で健康的な生活を送るために必要な自己管理能力を養い、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる学生を養成する。
海外事情科目	海外事情Ⅰ	イギリス(カンタベリー・クライスト・チャーチ大学)、アメリカ(イリノイ大学)、カナダ(ビクトリア大学)、中国(湖南師範大学)、オーストラリア(ボンド大学)と本学との協定に基づき準備された夏期語学研修・教養講座であり、内容は国際語としての英語(実用的生活英語重点)・中国語の実地研修、国際教養講座(歴史、文化、教育、経済等)の他、学外演習などを行う。	
	海外事情Ⅱ		
	海外事情Ⅲ		
	海外事情Ⅳ		

## 学校法人愛知学院 学部等設置に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学定員		収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学定員		収容 定員	変更の事由
		2年次	3年次				2年次	3年次		
<b>愛知学院大学</b>					<b>愛知学院大学</b>					
文学部					文学部					
	70	1	1	285		70	1	1	285	
	130	1	1	525		130	1	1	525	
	110	1	1	445		110	1	1	445	
	110	1	1	445		110	1	1	445	
	110	1	1	445		110	1	1	445	
商学部					商学部					
	250	1	1	1,005		250	1	1	1,005	
経営学部					経営学部					
	290	1	1	1,165		290	1	1	1,165	
経済学部					経済学部					
	250	1	1	1,005		250	1	1	1,005	
法学部					法学部					
	190	1	1	765		190	1	1	765	
	105	1	1	425		105	1	1	425	
総合政策学部					総合政策学部					
	210	1	1	845		210	1	1	845	
心身科学部					心身科学部					
	140	1	1	565		0	0	0	0	令和4年4月学生募集停止
	180	1	1	725		180	1	1	725	
	80	-	-	320		80	-	-	320	
薬学部					薬学部					
	145	-	-	870		145	-	-	870	学部の設置(届出) 定員変更(20)
歯学部					歯学部					
	125	-	-	750		125	-	-	750	
	計	2,495	13	13	10,585	計	2,515	13	13	10,665
<b>愛知学院大学大学院</b>					<b>愛知学院大学大学院</b>					
文学研究科					文学研究科					
	10	-	-	20		10	-	-	20	
	4	-	-	12		4	-	-	12	
	10	-	-	20		10	-	-	20	
	5	-	-	15		5	-	-	15	
	10	-	-	20		10	-	-	20	
	5	-	-	15		5	-	-	15	
	10	-	-	20		10	-	-	20	
	5	-	-	15		5	-	-	15	
商学研究科					商学研究科					
	10	-	-	20		10	-	-	20	
	5	-	-	15		5	-	-	15	
経営学研究科					経営学研究科					
	20	-	-	40		20	-	-	40	
	10	-	-	30		10	-	-	30	
経済学研究科					経済学研究科					
	7	-	-	14		7	-	-	14	
法学研究科					法学研究科					
	15	-	-	30		15	-	-	30	
	2	-	-	6		2	-	-	6	
総合政策研究科					総合政策研究科					
	6	-	-	12		6	-	-	12	
	4	-	-	12		4	-	-	12	
心身科学研究科					心身科学研究科					
	20	-	-	40		20	-	-	40	
	4	-	-	12		4	-	-	12	
	10	-	-	20		10	-	-	20	
	4	-	-	12		4	-	-	12	
薬学研究科					薬学研究科					
	3	-	-	12		3	-	-	12	
歯学研究科					歯学研究科					
	18	-	-	72		18	-	-	72	
	計	197	-	-	484	計	197	-	-	484
<b>愛知学院大学短期大学部</b>					<b>愛知学院大学短期大学部</b>					
歯科衛生学科					歯科衛生学科					
	100	-	-	300		100	-	-	300	
専攻科(口腔保健学専攻)					専攻科(口腔保健学専攻)					
	10	-	-	10		10	-	-	10	
	計	110	-	-	310	計	110	-	-	310
<b>愛知学院大学歯科技工専門学校</b>					<b>愛知学院大学歯科技工専門学校</b>					
本科					本科					
	35	-	-	70		35	-	-	70	
専修科					専修科					
	20	-	-	40		20	-	-	40	
	計	55	-	-	110	計	55	-	-	110